年報２００９の発行にあたって

群馬県立自然史博物館は、平成 8 年の開館以来 14 年目を迎えました。今年度は、新型インフルエンザの流行が大きな話題でしたが、幸いなことに心配していたほど大きな流行とはならずに、季節性インフルエンザと重なりながら終息に向かっているようです。しかし、群馬県内でインフルエンザ流行警報が発令された平成２１年秋には、館内の主要部分での消毒や来館者への手指の消毒やマスクの着用の協力を依頼するとともに、より多くの感染に対応すべく用意をしました。児童生徒に感染者が出た学校や、感染拡大を心配した学校を含む団体が来館を取りやめたり、事業への参加を取りやめる連絡などに職員が追われる日もありました。この経験を無駄にせず、安全で安心していただける館運営に努めて参ります。

さて、今年度は 3 つの企画展を行いました。夏は北九州市立自然史歴史博物館のご協力をいただいて、「シーラカンスの謎に迫る～ブラジル化石と大陸移動の証人たち～」を開催しました。全長 3.8mに及ぶ最大のシーラカンス復元骨格は圧巻で、記念写真を撮影する人々が後を絶ちませんでした。また、アクアマリンふくしまのご協力による生体が泳ぐ映像は、謎の多い生物に興味をもっていただくのに絶好の機会であったと思います。秋には哺乳類の骨格をヒトと比べることで、自然の造形の興味ある仕組みや哺乳類の繁栄と多様性を紹介する「ＢＯＮＥＳ」を開催しました。22 年春から始まった「むし　虫　ウォッチング」とともに、予算の減少を担当者のアイデアと時間をかけた準備、自作展示物によってカバーしようとする展示で、多くの来館者に見ていただきました。

教育普及事業では、毎週土曜日に実施している「サイエンス サタデー」に今年もたくさんの方に参加していただき、年間の参加者数が 2,000 人を超える記録を作りました。気軽に参加していただける企画が評価されたものと考えていますが、新たなプログラム開発など更に充実させていくことが求められます。この事業の運営に協力していただいているボランティアの皆様は、県内で行われたボランティアフェスティバルに参加するなど、活動を活性化しながら博物館の広報活動にもご協力いただきました。

群馬県北西部の長野原町を中心に行っている第 4 次の自然史調査は 2 年目に入り、採集資料を企画展で展示することで情報を提供することができました。

限られた予算、人員で館の運営に努力していますが、それを側面で支えていただいているボランティアの方々には多方面にわたりお世話になっております。また、県内外の研究者、自治体関係者のご指導やご協力をいただけることで、より開かれた博物館として充実できているものと思っております。

この度、平成２１年度における事業の概要をまとめて年報として発行いたしました。ご高覧の上、今後の自然史博物館の運営につきましてご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 22 年 4 月

群馬県立自然史博物館
名誉館長　　長谷川　善和

Ⅰ　管理

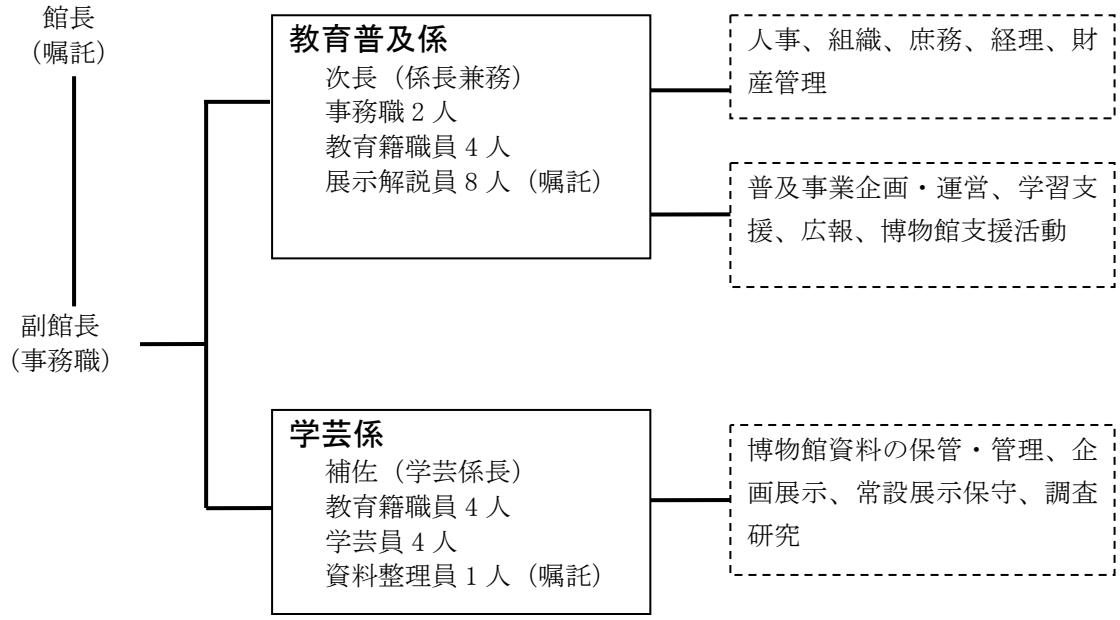
１　沿革

群馬県立自然史博物館の前身である群馬県立自然科学資料館の沿革も含めて記録します。

昭和 32 年 3 月 12 日	群馬県立博物館開館(群馬県富岡市一ノ宮 1353)
昭和 54 年 10 月 17 日	群馬県立歴史博物館設置に伴い、群馬県立博物館廃館
昭和 57 年 7 月 16 日	旧群馬県立博物館（富岡市一ノ宮）を改修し、群馬県立自然科学資料館が開館
昭和 63 年 12 月 1 日	自然科学資料館整備拡充調査構想委員会を設置（学識経験者 10 名、行政職 6 名）
平成 1 年 4 月 1 日	群馬県教育委員会社会教育課学習文化室に選任職員 1 名配置
平成 4 年 2 月 3 日	建築プロポーザルにて内井昭蔵建築設計事務所に建設基本設計を委託
平成 4 年 3 月 31 日	建築基本設計終了
平成 5 年 1 月 28 日	(株)丹青社と展示実施設計委託契約を締結 (財)日本科学技術振興財団と展示実施設計の監修業務の委託契約を締結
平成 5 年 7 月 31 日	建設実施設計終了
平成 5 年 8 月 31 日	展示実施設計終了
平成 6 年 6 月 30 日	建築工事等着工
平成 6 年 8 月 12 日	展示工事入札、(株)丹青社が落札
平成 7 年 4 月 1 日	長谷川善和氏（理学博士横浜国立大学名誉教授）が参与に就任
平成 8 年 3 月 15 日	建築工事等竣工
平成 8 年 3 月 27 日	群馬県立自然史博物館の設置及び管理に関する条例を公布
平成 8 年 3 月 31 日	群馬県立自然科学資料館を廃止し、資料は自然史博物館に引き継ぐ
平成 8 年 4 月 1 日	群馬県立自然史博物館発足（前橋市大友町庁舎３階） 職員 18 名（副館長、次長、総務課 3 名、教育普及課 3 名、学芸課 7 名） 非常勤嘱託 5 名 長谷川善和氏（理学博士横浜国立大学名誉教授）が初代館長に就任
平成 8 年 5 月 1 日	建築ＪＶ側から群馬県に建物の引き渡し
平成 8 年 5 月 16 日	付帯ホール（愛称「かぶら文化ホール」）の管理運営にあたる財団法人かぶら文化ホールが設立許可
平成 8 年 5 月 27 日	大友町庁舎から富岡市の自然史博物館に移転
平成 8 年 5 月 31 日	財団法人かぶら文化ホールにホールの管理運営等を委託
平成 8 年 9 月 1 日	展示解説員（非常勤嘱託）8 名採用
平成 8 年 9 月 14 日	展示工事竣工
平成 8 年 10 月 21 日	開館記念式典
平成 8 年 10 月 22 日	開館（一般公開）　　第１回企画展「アルゼンチンの恐竜たち」開催
平成 14 年 1 月	開館５周年記念企画「ミュージアム・ポスター展」開催(1月4日～2月17日) 開館５周年記念講演会「ヒトと森と　ー森がヒトをはぐくむ」開催（1 月 26 日）講師：宮脇　昭氏（国際生態学センター研究所長）、河合　雅雄（兵庫県立人と自然の博物館館長）
平成 14 年 6 月 9 日	入館者 100 万人達成
平成 18 年 7 月 15 日	開館 10 周年記念展「コアラ大陸オーストラリア　～ふしぎな動物たちの世界～」開催
平成 19 年 1 月 4 日	開館 10 周年記念事業「自然史博物館のあゆみ展」開催
平成 20 年 8 月 8 日	入館者 200 万人達成

平成 22 年 2 月　　正面玄関プロムナード路面改修
平成 22 年 3 月　　尾瀬シアター、トリケラトプス復元映像、機器及び映像更新

2 組織



3 事業体系

管理運営			人事、組織	教育普及係
			予算、経理	
			施設管理	
			庶務	
事業	展示		常設展示保守、改修	学芸係
			企画展示	
	普及事業	一般対象	展示解説	教育普及係
			ファミリー自然観察会	
			講演会	
			自然史講座	
			天体観望会	
			ミュージアムナイトツアー	
			バックヤードツアー	
			サイエンス･サタデー	
		小中学生対象	自然史博物館探検隊	教育普及係
			子どもミュージアムスクール	
		高校生対象	高校生学芸員	教育普及係
	学校教育支援		館内授業	教育普及係
			博物館体験学習	
			教育用資料貸出	
			博物館実習	学芸係

事業	調査研究	長野原地区総合調査	学芸係
		山中層群の古生物学的研究	
		研究報告編集	
	情報システム		全体
	資料収集・保存・管理	採集	学芸係
		製作委託・購入	
		寄贈・寄託・移管	
		貸出・借用管理	
		文献・図書管理	
	博物館支援活動・広報	ボランティア	教育普及係
		友の会	
		視察受入	
		広報	
		相談指導	
	自治体等との連携	調査	全体
		相談指導	

４ 歳入歳出決算

歳入　　単位（千円）

区　　分	金　　額	内　　容
博物館入館料	３７，８９２	観覧料
施設使用料	５７２	ミュージアムショップ
雑　　入	２，２７４	
計	４０，７３８	

歳出

事業名	金　　額	内　　容
館運営	２５２，３８４	館の維持管理、事業運営等
博物展示	４６，０２７	常設展示メンテナンス、企画展
教育普及活動	２，１２５	観察会等教育普及事業
調査研究	１８，４２２	フィールド調査、学会参加
計	３１８，９５８	

Ⅱ　事業の概要

1　展示

(1) 常設展示

県民が自然の生い立ちや群馬県の多様で豊かな自然環境などへの理解を深め、自然に親しみながら学習する施設とするため、展示に際して、①資料についてはできる限り実物を揃える　②資料のケース内の展示を極力減らして身近に展示し、実物を実感してもらう　③資料を観覧するだけでなく、資料によっては直接手で触れたり、随所に映像や体験コーナーを設けたり、参加・体験型の展示を心がける、以上の3点に配意している。

展示の保守にあたっては、通常年どおり、2回の展示全体（Ａ～Ｅコーナー）のメンテナンスと電球類の交換を行った。また昨年度・本年度にて常設展示室内の20インチモニタを液晶モニタに更新した。

常設展示は、下記の5つのコーナーに区分されている。

① 地球の時代（Ａコーナー）

誕生から 46 億年を経て現在に至る地球の発達、すなわち大地が形成される過程、そして地球における生命誕生とその生命が様々な環境に適応し多様化していく過程の二つを軸として、その中に群馬県の地質や化石を絡めて、生命の進化史を群馬県の自然史と対比しながら世界的・日本的規模で展示している。本コーナーの展示は、今の自然環境の基盤となる地球（太陽系）の形成と生命の誕生と先カンブリア時代の発展を紹介する「水の惑星と生命の誕生」にはじまり、「生命を育てた太古の海」（古生代）、「恐竜の時代」（中生代）、「哺乳類の時代」（新生代第三紀）、「人類の時代」（新生代第四紀）の５つに分けられる。

展示の中心は大型恐竜の全身骨格標本で、地球上で最大の生物を代表するブラキオサウルス（全身骨格が復元された恐竜としては最も背が高い）、カマラサウルス（世界で唯一の組み立てられたメスの全身骨格）、マメンキサウルスといった世界三大大陸の恐竜（竜脚類）として展示している。またボーンベッド展示では、アメリカで発見されたトリケラトプスの全身骨格化石（実物）の産出した状況をガラスの床下に観察できる。

平成 21 年度に新規作製された展示は、A-3 の「トリケラトプスの復元」展示である。従来の内容を踏まえて、新規撮影された常設展示映像とＣＧ（東京大学総合研究博物館・藤原慎一博士の監修）を元にフルハイビジョンで作製され、46 インチ液晶ディスプレイで上映している。同時に展示造作（筐体）も改修された。展示の更新と補修関係では、A-3「トリケラトプス全身骨格」「３大陸の恐竜全身骨格」ならびにA-5「マンモス全身骨格」周辺の骨格の足下造作を補修したほか、Ａコーナー全体を通して、研究の進展によって分類学的位置等が変更された標本の新規ラベル 11 点を作成し、既存のものと交換した。また、A-2 に展示されていた三葉虫標本のうち、破損のために一時的に撤去したアサフス・コワレウスキイについて、新たな標本を入手して展示した。展示機器の保守点検については、A-1 の大型拡散霧箱について年２回、A-3 の動刻（ロボット関係：ティランノサウルス、ガリミムスなど）を年４回実施した。また、A-4 の有孔虫用の双眼実体顕微鏡と資料回転台の部品交換を行った。

（展示資料数 1,093 点）

② 群馬の自然と環境（Ｂコーナー）

多様で豊かな群馬の自然環境を低湿地から亜高山帯まで、また利根川や尾瀬など代表的な地域に分けてジオラマ、標本、映像等で紹介している。特に山地帯の展示ではブナ林、亜高山帯はシラビソーオオシラビソ林、丘陵帯はクヌギーコナラ林、低湿地は茂林寺沼の周辺の植物、尾瀬では湿原植物を、それぞれジオラマで再現している。また、利根川では3つの水槽に上・中・下流に代表的な魚を生体で展示している。水槽展示のメンテナンスは年22回実

施している。それぞれの場所ごとに生息する哺乳類や鳥類などの剥製やレプリカ、アクリル標本なども数多く展示している。

また尾瀬シアターは、従来の模型と映像による上映形式から、汎用性をもたせた180インチのプロジェクター投影形式へと設備を改修した。通常の上映番組は、従来の映像に新規撮影映像を加え、日本を代表する尾瀬の湿原をミズバショウの妖精ミズビーが案内するものとなっている。

（展示資料数1,355点）

③ ダーウィンの部屋（Ｃコーナー）

老博物学者のロボットが生物の進化について説明する。展示室内は、博物学者の書斎や倉庫、実験室をイメージし、数多くの標本を間近に見ながら、資料に触れたり、機器を操作したりしながら観察できる参加体験型の展示となっている。平成12年度に寄贈されたダーウィンの直筆書簡と顕微鏡を展示している。また、動刻（ロボット）については、保守点検を年4回実施した。恐竜の骨格復元体験展示は、修復不可能な破損状態となったため、ハンズオン展示台へと改修した。またダーウィンの部屋内のモニタを液晶モニタに更新した。

（展示資料数540点）

④ 自然界におけるヒト（Ｄコーナー）

このコーナーは、「1 動物としてのヒト」「2 ヒトの起源と進化」「3 ヒトの特徴」という3つの展示で構成されている。展示のコンセプトは、等身大立体教科書であり、教科書等で縮小され、平面的に紹介されてきた有名な図を、実物標本や模型・複製等で再現している。

（展示資料数364点）

⑤ かけがえのない地球（Ｅコーナー）

人間の生活が地球全体に及ぼす影響を紹介し、環境問題について考える機会を与える展示である。エコボール、ドードーやトキなど絶滅、または絶滅の危機にある動物の紹介や、森林の保水作用を説明する模型、環境クイズの映像などを展示している。

（展示資料数29点）

⑵　企画展示

①第32回企画展「わかった！かわった？群馬の自然」

趣旨：　群馬県立自然史博物館では、開館以来、県内の生物や地形地質に関する調査・研究を行ってきた。その結果、新種の古生物の記載や、過去の調査空白域のデータの知見などの新たな知見が得られた。加えて、外来生物の侵入や里山環境の変化など、自然環境の変化を明らかにした。本展示では、自然史博物館が行ってきた一連の調査の成果を展示するとともに、調査方法や風景を紹介し、一般県民への自然史調査への関心を喚起することを目的とした。自然史調査や、研究報告に発表された事象の「その後」を紹介し、環境問題や、自然科学の進歩への関心を高めるための契機とした。

内容：　・自然史博物館の調査・研究

群馬県立自然史博物館における調査研究の概要と調査研究活動の沿革、調査用具と調査方法を解説した。

・群馬の自然を記録する　地域の戸籍作り－地域の生物調査と地形地質調査

下仁田・南牧地域調査、奥多野地域調査、県内鉱物委託収集の成果から、自然史博物館の研究活動の基本たる地域の自然史調査を紹介した。

・群馬の自然を記録する　群馬の化石からわかること

富岡層群（新生代）、山中層群（中生代）の古生物学的研究の成果と、その後

の研究の進展について紹介した。

・群馬の自然環境をみつめる　群馬の原風景は今

群馬の里山と低湿地の現状を紹介した。

・群馬の自然環境をみつめる　外来生物調査

群馬の外来生物の現状を紹介した。

・情報コーナー

当館の調査研究成果の報告書を紹介するとともに、リレートークなどの場とし、博物館からの調査研究活動の情報発信の場とした。

展示点数：約380点

期　　間：平成21年4月1日（水）～5月6日（水）開催日数32日

入館者数：17,221人（24,120人）平成21年度〔（　）内は開催期間中〕

関連事業：博物館リレートーク

日　時：期間中の毎週土曜日

会　場：企画展示室

講　師：学芸係職員毎週2名

参加者：のべ89人（126人）平成21年度〔（　）内は開催期間中〕

自然教室「群馬の化石」

日　時：4月5日（日）

会　場：学習室・実験室

講　師：群馬県立自然史博物館学芸係 髙桒祐司

参加者：21人

自然教室「どこまでかわった？群馬の植物」

日　時：4月26日（日）

会　場：学習室・実験室

講　師：群馬県立自然史博物館学芸係 大森威宏

参加者：12人

設計・施工：株式会社ノブプランニング

その他：企画展と同時にブックレット「侵入する生物たち」1,200部を発行した。

② 第33回企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジルの化石と大陸移動の証人たち～」

趣旨：　シーラカンスは生きた化石として広く知られている。もともとシーラカンスは三畳紀やジュラ紀に最も繁栄し、中生代末までに絶滅した魚類として知られていたが、1938 年に南アフリカで生きたシーラカンスが発見され、非常に注目を集めた。この時に発見された標本は翌年(1939 年）に *Latimeria chalumnae* として記載された（企画展を開催した平成 22 年は記載論文発表から 70 周年）。

かつてユーラシア、アフリカ、南北アメリカなど 6 つの大陸はパンゲアと呼ばれる一つの大陸であった。この大陸に生息していた動植物の化石が現在、世界各地の地層から発見されており、これらの化石は現在では大きく離れている大陸が、かつては一つの大陸であったことを直接示しています。このような化石の中でも特にブラジルから産出するジュラ紀や白亜紀のシーラカンスやペルム紀の爬虫類メソサウルスなどは南アメリカとアフリカがかつては一つの大陸であったことを示す重要な証人ともいえる。

企画展では、生きた化石として知られるシーラカンスについて、特に南米産

の化石を中心に紹介するとととともに、大陸移動の証人という視点からシーラカンスや他のブラジル産魚類化石を中心に紹介した。

内容：　・シーラカンスの発見
現在生息しているシーラカンスの発見の歴史、及び生物としてのシーラカンスの紹介。シーラカンス模式標本の実物鱗等を展示。
・大陸移動とは
大陸移動についての解説及び大陸移動の証拠となる様々な化石を展示。
・大陸移動のもう一人の証人　シーラカンス
最も原始的なシーラカンスから、化石として知られる最後のグループのシーラカンスまで時代軸に沿って紹介。世界最大のシーラカンス化石マウソニアの全身復元骨格などを展示。シーラカンスの進化と大陸移動の関連についても紹介。
・大西洋ができ始めたころの魚たち
ブラジルの豊富な魚類化石を展示し、大陸移動と大西洋ができ始めたころの魚類の多様性を紹介。
・化石回廊
ブラジル産魚類化石を壁面、ガラス床下に展示。化石に囲まれた空間を歩くことで、白亜紀の海を化石を通して紹介。
・シーラカンスプロジェクト
これまでに日本で行われてきた様々なシーラカンスに関わる研究プロジェクトの紹介。日本に最初に到着したシーラカンスのレプリカや近年行われたシーラカンスの解剖の映像、CTスキャン画像などを展示。

展示点数：約900点
期　　間：平成21年7月11日(土)～8月30日(日) 開催日数48日
入館者数：47,569人
関連事業：記念講演会「シーラカンスの謎と不思議①
～生きた化石の進化と大陸移動～」
日　時：7月11日（土）13:30～15:45
会　場：学習室
講　師：北九州市立自然史・歴史博物館　籔本美孝
参加者：63人
記念講演会「シーラカンスの謎と不思議②～生きた化石の姿にせまる～」
日　時：8月2日（日）13:30～15:45
会　場：学習室
講　師：アクアマリンふくしま　岩田雅光
参加者：94人
設計・施工：株式会社ウチダテクノ
その他：図録を1,300部(1,000部＋300部増刷）及びポストカード2種を各1,000枚作成し、配布・販売した。

③ 第34回企画展「ＢＯＮＥＳ」

趣旨：脊椎動物の精巧に組み立てられた骨格には、生物の進化や動物の生態的特徴などの情報が凝縮されている。「みる　きく　かぐ　たべる　うごく　ふやす」

といった動物の動きをキーワードに、骨から読み解く動物たちの生活を紹介した。

内容：・骨のある動物たち

外骨格と内骨格の違いについて紹介。内骨格の説明に二重染色透明標本（原島広至氏所蔵資料）を多数展示。また、恐竜、現生動物、ヒトの CT 画像を動画で映写（Ohio 大学、Witmer 研究室提供：国内初公開）。

・骨のしくみ

骨は細胞でできている、骨と骨をつなぐしくみ、骨の重さ、骨の成長など、骨格を構成するそれぞれの要素について体験型の展示を用いて紹介。骨の成長では、胎児から成人までのヒト交連骨格を用いて説明した。

・骨格の機能

脳を守る、内臓を守る、身体を支える、造血・カルシウム貯蔵する、など、生命維持装置としての骨格を紹介。

・動物の生活と骨格

適応した環境に応じて進化してきた多様な動物たちの身体を、「咀嚼する」「きく」「みる」「かぐ」「うごく（歩く、走る、掘る、飛ぶ、泳ぐ）」をキーワードに紹介。各コーナーには（株）NTS 製作の 3D プリンター出力モデルを説明のため設置した。

・もとは一つのルーツ

哺乳類の多様化は、中生代の原始的な哺乳類から始まったことを紹介。

・その他：体験型

関節を体験するコーナーを設置。（株）NTS 所蔵３D プリンターを設置。イベントでデモストレーションを行った。

展示点数：約 400 点

期　　間：平成 21 年 9 月 19 日(土)～11 月 23 日(月・祝日) 開催日数 57 日

入館者数：40,885 人

関連事業：自然教室　「骨の仕組みをみてみよう」

日　時：9 月 20 日(日)　13:30～15:30

会　場：実験室

講　師：館職員

参加者：16 人

講演会　「動物死体をよみがえらせる」

日　時：10 月 4 日(日)　13:30～15:30

会　場：学習室

講　師：遠藤秀紀（東京大学総合研究博物館　教授）

参加者：64 人

自然教室　「頭骨や歯のレプリカから動物の名前をしらべよう」

日　時：10 月 25 日(日) 13:30～15:00

会　場：実験室

講　師：館職員

参加者：24 人

講演会　「骨の形には意味がある！丸い骨、穴だらけの骨、デコボコした骨」

日　時：11 月 8 日（日）　13:30～15:30
会　場：学習室
講　師：原島広至（サイエンスライター）
参加者：54 人

自然教室　「骨をならべて動物の骨格をしらべよう」
日　時：11 月 22 日(日) 13:30～15:00
会　場：実験室
講　師：館職員
参加者：22 人

実施設計：中村展設株式会社
展示施工：（株）丹青ディスプレイ
その他：図録（本文 46p.1000 部）、ポストカード２種（各 1,000 枚）作成し、配布・販売した。

④ 第35回企画展「むし　虫　ウォッチング」

趣旨：　昆虫は動物の中で最も種類数が多く多様性の世界だと言われる。それだけ様々な形態と生活のしかたをしている。日本に分布する昆虫は約 3 万種、世界では 1,000 万を超えるとも言われている。今回の企画展では意外と知られていない昆虫たちの姿を紹介した。標本箱に資料を並べるのではなく、それぞれの昆虫の生活史や生態が学べる展示になるように工夫した。

内容：展示室前通路
・昆虫の眼について　昆虫拡大模型等
・青沼秀彦 昆虫写真館として昆虫顔面等の拡大写真を 50 点展示

企画展示室
・世界の昆虫「熱帯アジア・オセアニア」「アフリカ」「中央・南アメリカ」「ユーラシア・北アメリカ」の地理区ごとに標本を展示。
・日本の昆虫　分類ごとにドイツ箱で展示。ハチ類、セミ類、バッタ類、オトシブミ・ゾウムシ類、テントウムシ類、カミキリ類、フンチュウ類、その他甲虫、トンボ類、アブ類、アゲハチョウ類、シロチョウ類、シジミチョウ類、ゼフィルス類、タテハチョウ類、ガ類
・擬態　青沼秀彦昆虫写真館 2 として擬態する昆虫写真を 30 点展示。
隠蔽、警告、ベーツ型擬態、ミューラー型擬態の標本を展示。南西諸島での無毒のシロオビアゲハが有毒のベニモンアゲハに擬態する進化の様子などを展示。
・群馬県で絶滅が危惧されるチョウとその保全活動、アサギマダラなどの昆虫の大移動と分布を拡大しているツマグロヒョウモンやクロコノマチョウなどを紹介した。

展示点数：標本箱（ドイツ箱）で463点
期　　間：平成22年3月13日（土）～3月31日（水）開催日数16日
入館者数：8,398人
関連事業：講演会「自然界のウソ」
日　時：3月21日（日）

会　場：学習室
講　師：自然環境センター　研究主幹　千石正一
参加者：92人

設計：株式会社ノブプランニング
施工：石井デザイン事務所
その他：その他：図録を1000部作成し、配布・販売した。

(3)　ミニ展示

①「桐生で発見！古生代の新種腕足類」

平成21年3月発行の当館研究報告第13号された学術論文において、桐生市内に分布する足尾帯から産出したペルム紀腕足類*Eolyttonia kiryuensis*が産地の桐生にちなんで新種記載された（Tazawa and Takakuwa, 2009）一方、2007年には5月10日が「地質の日」として新たに制定されており、各地の博物館で「地質の日」記念事業が開催されている。そこで、平成21年度の「地質の日」記念事業として上記特別展示を実施した。

展示会場　自然史博物館エントランス（学習室前の回廊部分）
展示期間　平成 21（2009）年 5 月 9 日（土）～8 月 2 日
展示点数：標本類 8 点、パネル等 11 点

②「飛び出せ！科学くん」に登場！スカシカシパン化石

ＴＢＳ系番組「飛び出せ！科学くん」8月10日放送分において当館が紹介された（7月14日にロケ実施）。そこで、同番組内でスタジオにおいて有名タレントから紹介されたスカシカシパン化石（収蔵標本）について、上記特別展示を実施した。

また、同番組で紹介されたその他の標本類のうち、展示中のもの7点に同番組で紹介されたことを示す展示サイン（番組ロゴはＴＢＳ提供）を付与した。

展示会場：自然史博物館エントランス（常設展示室入口・6 面マルチ前）
開催期間：平成 21（2009）年 8 月 12 日（水）～12 月 20 日（日）
（ただし、マウソニア・ラボカティについては企画展のための借用標本だったため、8 月 30 日まで）
展示点数：標本類 1 点、パネル等 2 点､展示サイン 9 点

(4)　共催展示

①「わくわく昆虫ランド　ふるさと里山昆虫記」

大間々博物館コノドント館と共催で第 62 回特別展「わくわく昆虫ランド　ふるさと里山昆虫記」を開催した。昆虫ドイツ箱約 60 箱を青沼秀彦氏撮影の写真とともに展示した。

展示会場：大間々博物館コノドント館（みどり市大間々町）
開催期間：平成 21 年 7 月 18 日～平成 21 年 8 月 30 日

2　教育普及

(1)　教育普及事業

①　展示解説

常設展示室並びに企画展示室の解説は、時間を決めて行う「定時解説」と来館者の質問にその場で応える「随時解説」を実施した。「定時解説」は、常設展示室内を、Ａコーナー(地球の時代)、Ｂコーナー(群馬の自然と環境)、2 階(ダーウィンの部屋、自然界におけるヒト、かけがえのない地球)の 3 つに区分し、それぞれの定時解説時間は 30 分で 1 日 2 回実施した。企画展開催中は、企画展の定時解説（30 分）を加えて行った。

平成 21 年度　定時解説・随時解説年間記録表

月	開館日数	常設展定時解説参加者	企画展定時解説参加者	定時解説参加者	一日平均	随時解説回数	随時解説参加者
4	26	142	24	166	6.38	1,078	2,264
5	28	168	28	196	7.00	1,503	3,150
6	18	108		108	6.00	725	1,561
7	27	91	127	218	8.07	1,244	2,636
8	30	427	483	910	30.33	2,453	5,495
9	26	265	28	293	11.27	1,259	2,762
10	27	147	56	203	7.52	1,241	2,829
11	25	117	91	217	8.68	900	1,931
12	23	93		93	4.04	452	1,057
1	21	207		207	9.86	668	1,511
2	16	113		113	7.06	598	1,279
3	23	203	44	247	10.7	845	1,913

学校等の団体を対象に「スポット解説」を実施した。スポット解説は、引率者と事前の打ち合わせを行い、特定の展示資料について 10 分程度の解説を行った。

スポット解説

内　　容	団体数	内　　訳
「カマラサウルス」	36	幼保 2　小学校 31　　学童3
「尾瀬」	1	小学校1
「アフリカにすむ動物」	1	小学校1
「飛ぶタネのおはなし」	1	小学校1

展示解説の充実に向け、展示解説員の研修を 15 回実施した。6 月 26 日は、沼田市玉原湿原の視察研修を行い、武尊山の山麓に広がる植生について学んだ。また、11 月 5 日は館長より、展示資料の面白さやその価値、取り組んでいる研究について講義を受けた。6 月 26 日、12 月 27 日、1 月 28 日、2 月 24・25 日は、常設展示室の定時解説の内容、お客様への対応等について、展示解説員、学芸係、教育普及係で確認し合った。7 月 9・17 日、9 月 3・17・21・25 日、3 月 3・11 日は、企画展定時解説を充実させるため、企画展担当者より企画展のコンセプトや展示資料について説明を受け、企画展定時解説の内容について検討した。

② ファミリー自然観察会

群馬県内の自然についての理解を深めるために、県内各地を会場として自然観察会を開催し、家族で自然に親しむ機会を提供した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
5月10日(日)	吾妻峡の岩石と植物	吾妻峡の遊歩道を散策しながら吾妻峡の地質や成り立ち、自生する植物を観察した。	県立高崎北高校教諭 中村庄八 前橋市立荒牧小学校教諭 増田和明	24
6月14日(日)	水生昆虫－自由研究の参考に－	水生昆虫を観察するとともにパックテストで水質調査を行い、昆虫と水質との関係を学んだ。	県自然環境調査研究会会員 宮原義夫 学芸係 金井英男	40
10月18日(日)	みかぼ山の地質と植物	三波川変成帯に含まれる西御荷鉾山の地質や東御荷鉾山ふもとの枕状溶岩、そしてそこに生育する植物を観察た。	学芸係 田中源吾 大森威宏	11
11月29日(日)	冬鳥の観察	サンデンフォレストを会場に冬、水辺や森林に生息する野鳥の観察をした。	日本野鳥の会群馬県支部会員 浅川千佳夫 石松喜代司 奥野博邦 金谷道行 鈴木正利 水野博晶 水野敦子	45
合　　計				120

③ 天体観望会

博物館の天体ドームに設置している 40cm 反射望遠鏡・15cm 屈折望遠鏡や移動式の天体望遠鏡、双眼鏡を使い、その時季に見られる代表的な星座・星雲、惑星について観察した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
7月19日(日)	太陽の観察	7 月 22 日の部分日食を長時間の観察ができる太陽観察装置（ピンホール式）をつくり、その太陽観察装置を使って実際に太陽を観察した。	学芸係 杉山直人	59
7月22日(水)	日食観察	中庭で部分日食を観察した。10:55～11:30 には雲を通して太陽が欠けている様子がはっきり肉眼で確認することができた。11：11 には食分最大の太陽を観察できた。	学芸係 杉山直人	500
11月14日(土)	夏と秋の星座、そして惑星	木星（衛星食）、M13、M27、M31、M57、天王星、海王星、アルビレオ、M45、月など、この時期に見られる天体を観察した。	学芸係 杉山直人	25

12月19日(土)	秋と冬の星座、そして木星	月、木星、天王星、海王星、M37、M57、M27、M15、M31、ｱﾙﾋﾞﾚｵ、ﾍﾞｶﾞ、ﾍﾞﾃﾙｷﾞｳｽ、M45 など、この時期に見られる天体を観察した。	県立ぐんま天文台 田口 光	29
1月16日(土)	秋と冬の星座、そして星団	M15、M31、M42、M1、M41、M33、木星、天王星、海王星ベガ、ベテルギウス、リゲル、アルマク、M42、木星、M45、木星、M31、h-χ など、星団を中心にこの時期に見られる天体を観察した。	学芸係 杉山直人	25
2月20日(土)	冬の星座と金星、火星、月	トラペジウム、M79、M78、月の全景、M42、M35、リゲル、アルマク、火星、トラペジウム、M45、M31、h-χ など火星を中心にこの時期に見られる天体を観察した。	県立ぐんま天文台 新井 寿	23
合　　計				661

④ 自然史講座

群馬の自然について考える講座を開催し、県民の自然への興味・関心や知識を高める機会を提供した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
5月31日(日)	尾瀬の自然と現状	尾瀬の植物を中心に過去と現在の比較や環境保護について解説をした。尾瀬の位置や泥炭のでき方、地糖のでき方、湿原の植物、尾瀬沼や地糖の植物、山の植生と植物相について130枚のスライドを交えながら解説した。	群馬県自然環境調査研究会会員 吉井広始	56
6月21日(日)	カンブリア紀におきた地球生命史上の大事件	岩石や化石に残された生命の証拠についての話の後、化石を研磨しながら写真撮影をしてその画像を立体的に表現する、微化石の３Ｄ化を紹介した。	学芸係 田中源吾	40
12月6日(日)	顕微鏡で見るコケの世界	コケについて学習した後、ハイゴケ、コツボゴケ、ラセンゴケ、ヒナノハイゴケ、コスギゴケなどのコケを顕微鏡で観察した。参加者はコケ植物の複雑な構造にとても感動していた。	学芸係長 里見立夫	11
1月31日(日)	草地や農耕地に生息する猛禽類	当館所有の剥製、チョウゲンボウ・ノスリ・ミサゴ・オオタカ・ハヤブサ・トビ・カルガモを展示し、猛禽類の草地や農耕地の生息状況について調査研究をもとに解説した。	東京大学大学院　農学生命科学研究科 今井絢子	40
合　　計				147

⑤ 企画展 講演会

企画展に協力いただいた研究者や展示内容に関連する専門家を招いたり、企画展担当者が講師となったりして、企画展に関連した講演会を開催した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
7月11日(土)	シーラカンスの謎と不思議① ～生きた化石の進化と大陸移動	シーラカンスの進化を多くの化石によって辿り、彼らの進化と大陸移動との関連について紹介した。	北九州市立自然史・歴史博物館 籔本美孝	63
8月2日(日)	シーラカンスの謎と不思議② ～生きた化石の姿にせまる	シーラカンス生態や調査のエピソード、インドネシアやタンザニアでのシーラカンス撮影の秘話などを紹介した。	アクアマリンふくしま 岩田雅光	94
10月4日(日)	動物死体をよみがえらせる	博物館における標本の収集や継承についての重要性や遺体科学の無限の可能性について解説した。	東京大学 総合研究博物館教授 遠藤秀紀	64
11月6日(日)	骨の形には意味がある！丸い骨、穴だらけの骨、デコボコした骨	著書で開発をした骨のシミュレーションソフトを活用して骨の仕組みについて解説した。二重染色透明標本の作り方についても詳しく紹介した。	サイエンスライター 原島広至	54
3月21日(日)	自然界のウソ	昆虫をはじめとした様々な生物の擬態について解説をした。	自然環境研究センター研究主幹 千石正一	92
合　　計				367

⑥ 企画展 自然教室

企画展に展示された資料や標本、また企画展に関連した資料や標本等を題材として、生物の体のつくりや生態、調査方法や人とのかかわりについて紹介した。

月　日	テーマ	概　　要	講　師	参加者数
4月5日(日)	群馬の化石	サメの歯の化石を2種類用意し、資料と照らし合わせながらどの種類サメであるかを同定した。	学芸係 高桑祐司	21
4月26日(日)	どこまでかわった？群馬の植物	群馬の植物について資料から希少種や重要な種が発見されている現状を紹介し、「知らない間に入っていたそっくりさん」として在来種と外来種の植物を観察した。	学芸係 大森威宏	12
4月4･11･18・25日･5月2日土曜日に実施	学芸員 リレートーク	県民に企画展の展示内容をより理解してもらうとともに、県民の自然に関する興味関心を高めるために実施した。	学芸係 のべ10名	89

9月20日(日)	骨の仕組みをみてみよう	ニワトリの手羽先、手羽中、手羽元を解剖して、筋肉や腱の動き方や骨や関節の仕組みについて観察した。	学芸係 姉崎智子 杉山直人 教育普及係 高橋秀武	16
10月25日(日)	頭骨や歯から動物の名前をしらべよう	肉食と草食の動物の頭のペーパークラフトをつくり、視界について学んだ。また、食性による歯のつくりの違いを９種のほ乳類の頭骨を観察してグループ分けをした。	学芸係 姉崎智子 杉山直人 教育普及係 高橋秀武	24
11月22日(日)	骨をならべて動物の骨格をしらべよう	博物館所有のアライグマの骨をならべて、グルーガン（ホットボンド）で固定した。アライグマの動きから、骨がどのように動くかについて、関節部分を中心に確認した。	学芸係 姉崎智子 杉山直人 木村敏之 教育普及係 高橋秀武	22

⑦ 自然史博物館探検隊

展示室内の宿泊や、普段公開していない収蔵庫や展示室の裏側探検など通して、子どもたちに博物館を身近なものに感じてもらうとともに、地球の成り立ちや生物の進化、群馬の自然について、更に興味・関心を高めてもらうため実施した。参加者へ指導（宿泊指導を含む）は、次長、教育普及係２名、学芸係１名、展示解説員３名で行った。

日　　時：8 月 8 日(土)　集合　午後 6:00
　　8 月 9 日(日)　解散　午前 8:00
参加人数：小学生 29 名　（募集対象：小学 4～6 年生）

⑧ 子どもミュージアムスクール

小学 5 年生から中学 3 年生を対象に、様々な体験を通して自然のしくみを知り、自然を大切にする理科好きな子どもの育成をめざして子どもミュージアムスクールを実施した。今年度は、3 コースに分け、コース別にテーマに沿って 10 回の課題追究学習を行った。

コース名	概　　要	指導担当職員	参加者数
植物標本とリストづくり	調査地点の植物のリスト作りと、そのための資料となる押し葉標本の作り方を学んだ。研究で使える植物の採集のしかたや、ラベルの作り方も学んだ。博物館周辺の植物やスクール生の自宅周辺の植物、学校のまわりの植物のリストを作って環境による植物の種類の違いを研究した。	学芸係 大森威宏	6
天体観測入門	博物館にある望遠鏡や双眼鏡を使い、太陽や月、夜空の星について位置や形などの変化を定期的に調べた。望遠鏡や双眼鏡の使い方についても学び、一眼レフカメラを使用して天体写真も撮影した。観察したデータを蓄積し、データの処理や考察をおこない研究としてまとめた。	学芸係 杉山直人	4

化石入門	吉井町の鏑川河床の野外調査に出かけ、現地に露出している泥岩や砂岩から、貝化石等の大型化石を採取した。貝化石が含まれていた岩石からは、有孔虫・放散虫・珪藻・介形虫などの微化石を取り出し、電子顕微鏡で観察した。大型化石や微化石をもとに、太古のこの地域の環境を考察した。	学芸係 田中源吾	5
合　　計			15

⑨ ビデオ上映会

自然に対して興味関心を持つきっかけとなることを目的として、参加無料のビデオ上映会を行った。対象は、子どもや子どもを含む家族連れとし、上映内容も自然に関係する低学年用のものを多くした。毎週土曜日の午前11時と日曜日の午前11時、午後2時に上映した。また、夏期休業中は平日の午前 11 時、午後 2 時に上映した。ただし、上映場所である学習室を他の行事で使用する場合は上映を行わなかった。

月	上　映　作　品	上映回数	参加者数
4	種の散布にみる植物の知恵	11	38
	アメリカザリガニ	2	47
5	アメリカザリガニ	6	235
	野鳥の観察	13	108
6	おもしろ理科実験「水の惑星を守れ」	8	69
7	ビジュアル博物館「鮫」	26	355
8	自然なぜなに？DVD図鑑「カブトムシ」	25	1,011
	ディズニーアニマルワールド「イルカ」	28	903
9	14ひきのおつきみ種の散布にみる植物の知恵	12	137
10	ビジュアル博物館「骨格」	11	129
11	ディスカバリーチャンネル「羽毛恐竜の誕生」	9	114
12	木や草の声が聞こえませんか～植物の冬越し～	9	32
1	ディズニーアニマルワールド「ペンギン」	9	63
2	日本昔ばなし「分福茶釜・湖の怪魚」	11	141
3	自然なぜなに？DVD図鑑「オオカマキリ」	8	206
合　　計		188	3,588

⑩ 移動博物館

遠隔地のため博物館に来館する機会の少ない人や、身体的な都合により来館しても十分に見学できない人に博物館を利用する機会を提供するため、県内各地の学校や公民館へ資料を運んで展示する移動博物館を開催した。前年度中に各学校、公民館に開催希望をとり、希望会場で実施した。今年度は、遠隔地からの希望がなかったため県央地域での開催となった。会場から要望がある場合は、体験活動を行った。体験活動は、飛ぶタネの模型づくりと化石のレプリカづくりの2種類とし、会場職員と協議して決定した。

会　　場	期　　日	利用者数
伊勢崎市立境東小学校	6月9日(火)～　6月11日(木)　　3日間	1,061
高崎市少年科学館	9月11日(金)～ 9月13日(日)　　3日間	1,454
前橋市立朝倉小学校	12月15日(火)～12月16日(木)　　3日間	278
合　　計		2,793

⑪ サイエンス・サタデー

学校週 5 日制の対応事業として、毎週土曜日の午後 2 時から 3 時まで、実験室や館周辺を活用した生物や地学に関連する簡単な実験・観察・ものづくり教室を行った。対象を小学生以上とし、講師や補助指導は館職員とボランティアが行った。

月	テーマ	概　　要	参加者数
4	イヌワシ型グライダーをつくろう	イヌワシの生活を学び、イヌワシ型グライダーをつくった。	155
5	火山灰から宝石を見つけよう	火山灰をわんかけし、鉱物の結晶を双眼実体顕微鏡で観察して記録した。	258
6	ガラスビーズを使った顕微鏡をつくろう	ガラスビーズを使った顕微鏡をつくり、植物の細胞の観察を行った。	154
7	動物が走るアニメゴマをつくろう	チーターやウマの走る様子が観察できるアニメゴマをつくった。	149
8	三葉虫のレプリカをつくろう	三葉虫の学習を通して三葉虫化石に対する興味関心を高め、レプリカをつくった。	521
9	飛ぶタネの模型をつくろう	カエデ、フタバガキ、アルソミトラのタネの模型をつくりタネや植物に関する興味関心を高めた。	109
10	ライオンの歯のレプリカをつくろう	6種類の動物の歯の見分け方を学び、ライオンの歯のレプリカをつくった。	165
11	落ち葉でお面をつくろう	博物館周辺の落ち葉の見分け方を学び、落ち葉を使ってお面をつくった。	88
12	偏光板万華鏡をつくろう	鉱物を見わけることができる偏光板を使って万華鏡をつくった。	129
1	北極星を見つける星座盤をつくろう	カシオペアや北斗七星から北極星を見つけることができる早見盤をつくった。	112
2	土の中の微生物を観察しよう	土を採集してピンセットやツルグレン装置で動物をつかまえ観察し、土壌動物について学んだ。	102
3	動物の足あとスタンプをつくろう	8種類の動物足跡の中から２種類を選択し動物の足跡スタンプをつくった。	171
合　　計			2,113

⑫ ミュージアムナイトツアー

夜の博物館を館職員が案内した。実施時間は 17:30～19:00 を設定し、閉館後の時間帯に行った。恐竜絶滅の原因を薄暗い展示室内の壁を利用して映像で見せたり、夜行性の動物の生態について紹介したり、薄暗い展示室の特徴を生かして解説を行った。

開催日：10 月 24 日（土）・11 月 7 日（土）・21 日（土）

参加者：93 名

⑬ バックヤードツアー

普段は公開していない博物館のバックヤード（収蔵庫や研究施設）を館職員が案内した。収蔵庫に保管してある化石や剥製などの様々な標本、資料整理の仕方や職員が取り組んでいる調査・研究などについて紹介した。

開催日：4 月 12 日（日）・2 月 7 日（日）・3 月 7 日（日）

参加者：121 名

⑭ 高校生学芸員

高校生の自然科学への関心を高めるため、自分で設定した研究テーマについて、学芸係職員の指導をもとに調査・研究を行う事業を実施した。今年度は 10 名の高校生が、5 つのテーマに取り組んだ。

	分　野	主な活動内容	参　加　者	担当
1	蘚苔類	コケ植物の採集と観察・同定	県立富岡東高等校等学校　3 名	里見
2	微生物	微生物の採集と観察､同定	県立前橋女子高等学校　1 名	金井
3	古生物	冨岡層群の化石の研究	県立富岡実業高校等学校　1 名	髙桒
4	哺乳類	野生動物の基礎調査 年齢査定法の確立	県立前橋女子高等学校　1 名	姉崎
5	古生物	野外地質調査・微化石の研究	県立富岡東高等学校　4 名	田中

⑵ 教育支援

① 教職員研修の受入

高崎市教育委員会が行っている教員対象の「高崎市立幼・小・中・特別支援学校中堅教員の体験研修」の参加者を受け入れた。

高崎市新高尾小学校教諭１名

活動日：8 月 13 日､14 日、18 日、19 日

内　容：昆虫資料整理(高橋(克))､化石資料整理（髙桒）､貝類資料整理(杉山)

② 高等学校教育への支援

計 5 校、452 名

支援先	対象	実施日	会場	人数	内　　容	対応職員
県立尾瀬高等学校（SPP 事業）	高 1	11 月 12 日	自然史博物館	37	自然史博物館の展示概要、博物館ボランティアによる展示解説	里見 上原 高橋(秀)
県立前橋東高等学校	高 1	10 月 16 日	自然史博物館	20	博物館の役割と学芸員の仕事、レプリカづくり体験	里見 上原
県立渋川女子高等学校（SPP 事業）	高 3	6 月 8 日	渋川女子高校	52	「進化の証拠～化石～」	髙桒
		6 月 9 日		52	脊椎動物の進化」	髙桒
		6 月 16 日		52	「ヒトの進化」	高橋(克)
		6 月 22 日		52	「マダガスカルの生きものたち」	高橋(克)
		6 月 23 日		52	「生命の誕生」	田中
		6 月 24 日		52	「カンブリア紀の生物大進化」	田中
		8 月 17 日	自然史博物館	52	常設展示、企画展示の解説	高橋(克) 木村 田中
県立桐生女子高等学校	高 1	3 月 10 日	自然史博物館	1	事業所見学、学芸員インタビュー	髙桒 上原
埼玉県立川越女子高等学校（SSH 指定校）	高 1，2	3 月 20 日	自然史博物館	23	博物館の役割と学芸員の仕事、バックヤード見学	里見 上原

③ 小中学校教育への支援

ア　総合的な学習の時間への対応（一般見学は除く）

計 2 校、12 名

学　校　名	学年	実施日	人数	内　　容（対応方法）	対応職員等
富岡市立東中学校	1	12 月 16 日	4	博物館ボランティアについて（来館）	高橋(秀)
富岡市立富岡小学校	6	2 月 10 日	8	博物館でのボランティア活動（来館）	高橋(克) 上原

イ　小学校・中学校及び理科主任会等への講師派遣・支援　　計 28 回　受講者 802 名

講師派遣・支援先	対象	実施日	会場	人数	内　　容	対応職員
富岡市小中学校校長会	校長	4 月 9 日	富岡市教育委員会	17	自然史博物館の効果的な利用方法	上原
高崎市小学校理科主任会	教員	4 月 16 日	高崎市立中居小学校	56	同上	松本
高崎市中学校理科主任会	教員	4 月 16 日	高崎市中央公民館	25	同上	高橋(秀)
前橋市小学校理科主任会	教員	4 月 16 日	前橋市立桃井小学校	55	同上	武井
前橋市中学校理科主任会	教員	4 月 24 日	前橋教育プラザ	27	同上	上原
富岡市中学校理科主任会	教員	4 月 30 日	富岡市立南中学校	8	同上	上原
富岡市小学校理科主任会	教員	5 月 8 日	富岡市立富岡小学校	14	同上	松本
県小学校理科部会	教員	5 月 15 日	県生涯学習センター	55	同上	松本
県中学校理科部会	教員	5 月 27 日	県生涯学習センター	55	同上	上原
富岡市立一ノ宮小学校	小 6	6 月 16 日	富岡市立一ノ宮小学校	61	化石の話	木村
吉井町小中学校理科主任会	教員	6 月 18 日	吉井町立中央中学校	11	自然史博物館の効果的な利用方法	武井
安中市立小学校理科主任会	教員	6 月 18 日	安中市文化センター	14	同上	上原
安中市小中学校理科主任会	教員	7 月 22 日	自然史博物館	30	化石のレプリカづくり	上原
高崎市小学校社会教育主任会	教員	7 月 28 日	自然史博物館	20	バックヤード見学	高橋(克) 上原
高崎市小学校理科主任会	教員	10 月 15 日	高崎市立中居小学校	65	簡易顕微鏡づくり・プランクトンネットづくり	松本 高橋(秀)
富岡市中学校技術科部会	教員	8 月 4 日	自然史博物館	9	液体窒素の取り扱い方･実験	上原
玉村町小中学校教育研究会理科部会	教員	8 月 4 日	玉村中学校･利根川	20	講義と実習「河川や岩石に関する研修」	杉山 田中
富岡市小学校理科主任会	教員	8 月 10 日	自然史博物館	10	化石のレプリカづくり・企画展見学	上原
藤岡市教育研究会中学校理科部会	教員	8 月 20 日	自然史博物館	10	自然史博物館の効果的な利用方法・バックヤード見学	上原

県小中学校高等学校理科教育研究会	中学生	10月25日	群馬大学教育学部	40	県理科研究発表会における指導講評	上原
安中市立東横野小学校	小6	10月30日	碓氷川の露頭	27	地層・化石の観察	上原
高崎市立下室田小学校	小6	11月6日	碓氷川の露頭	36	地層・化石の観察	髙桒 上原
富岡市立妙義小学校	小3～6	11月10日	妙義少年自然の家	10	天体観察	杉山
富岡市立妙義小学校	小3～6	11月12日	妙義少年自然の家	7	天体観察	杉山
安中市立九十九小学校	小6	11月13日	碓氷川の露頭	13	地層・化石の観察	上原
安中市立秋間小学校	小6	12月3日	碓氷川の露頭	42	地層・化石の観察	上原
高崎市立南八幡小学校	科学クラブ	12月10日	高崎市立南八幡小学校	34	化石のレプリカづくり	上原
安中市立秋間小学校	小4	2月19日	安中市立秋間小学校	30	天体観察	高橋(秀)

ウ　館内授業　　計 66校、103回、3,765名

学校名	学年	実施日	人数	授業内容	授業数
板橋区立志村第三小学校	5	5月13日	33	植物化石	1
館林立第一小学校	4	5月14日	104	レプリカ	2
太田市立韮川小学校	4	5月15日	79	レプリカ	2
大泉町立東小学校	4	5月19日	58	レプリカ	2
太田市立沢野中央小学校	4	5月20日	64	レプリカ	2
板橋区立志村第二小学校	5	5月20日	90	レプリカ	2
甘楽町立新屋小学校	6	5月21日	44	レプリカ	2
板橋区立高島第一小学校	5	5月22日	88	レプリカ	2
天津わかしお学校	5	5月27日	11	レプリカ	1
大間々町東小・東中学校	小1～中3	5月27日	26	レプリカ	1
伊勢崎市立殖蓮第二小学校	3	5月28日	84	飛ぶタネ	2
大泉町立北小学校	4	5月29日	68	レプリカ	2
板橋区志村小学校	5	6月3日	52	植物化石	1
赤城養護学校	小1～中3	6月5日	15	レプリカ	1
太田市立南小学校	4	6月9日	84	レプリカ	2
練馬区光が丘第五小学校	6	6月9日	16	レプリカ	1
板橋区立新河岸小学校	5	6月10日	42	レプリカ	1
板橋区立蓮根小学校	5	6月10日	71	レプリカ	2
玉村町立芝根小学校	3	6月11日	74	レプリカ	2
板橋区立上板橋第二小 学校	5	6月12日	48	レプリカ	1
練馬区立光が丘第四小学校	6	6月12日	30	レプリカ	1

目黒区立菅刈小学校	6	6月12日	34	レプリカ	1
板橋区立下赤塚小学校	3	6月17日	102	飛ぶタネ	2
小野上小学校	5	6月18日	23	レプリカ	1
練馬区立豊玉第二小学校	6	6月19日	39	植物化石	1
練馬区立石神井西小学校	6	6月19日	9	レプリカ	1
文京区区立音羽中学校	中2	7月1日	40	植物化石	1
板橋区立大山小学校	5	7月1日	30	レプリカ	1
東久留米市立下里小学校	6	7月3日	25	レプリカ	1
目黒区立原町小学校	6	7月3日	44	植物化石	1
板橋区板橋第一小学校	5	7月8日	56	レプリカ	1
清瀬市立清明小学校	5	7月8日	66	レプリカ	2
東久留米市立第四小学校	6	7月9日	9	レプリカ	1
桶川市立加納小学校	5	7月23日	56	液体窒素	1
板橋区立舟渡小学校	5	9月2日	59	レプリカ	2
練馬区立大泉学園小学校	5	9月4日	77	レプリカ	2
板橋区立徳丸小学校	5	9月4日	70	レプリカ	2
目黒区立碑小学校	6	9月9日	73	レプリカ	2
板橋区立高島第五小学校	5	9月11日	39	レプリカ	1
文京区立文林中学校	2	9月11日	32	パウチ標本	1
目黒区立向原小学校	6	9月16日	46	レプリカ	1
深谷市立榛沢小学校	3･4	9月17日	55	飛ぶタネ	2
前橋市立二之宮小学校	3･4	9月30日	77	レプリカ	2
桐生市立新里中央小学校	4	10月1日	77	レプリカ	2
渋川市立三原田小学校	3･4	10月2日	59	レプリカ	2
前橋市立駒形小学校	4	10月6日	75	レプリカ	2
桐生市立神明小学校	5	10月7日	51	液体窒素	1
練馬区立光が丘第二小学校	5	10月7日	47	レプリカ	1
榛東村立榛東北小学校	4	10月9日	72	レプリカ	2
群馬県立赤城養護学校	小2～中1	10月9日	2	レプリカ	1
本庄市立金谷小学校	3･4	10月14日	113	液体窒素	3
前橋市立元総社小学校	4	10月15日	46	レプリカ	1
大泉町立西小学校	4	10月16日	95	レプリカ	2
深谷市立本郷小学校	4	10月16日	42	飛ぶタネ	1
伊勢崎市立赤堀東小学校	4	10月20日	57	レプリカ	2
板橋区立富士見台小学校	5	10月27日	73	パウチ標本	2
高崎市立塚沢小学校	4	10月30日	103	レプリカ	2
高崎市立中川小学校	3	11月10日	80	飛ぶタネ	2
榛東村立榛東南小学校	4	11月12日	89	レプリカ	2
前橋市立荒牧小学校	3	11月17日	108	レプリカ	2
前橋市立城南小学校	6	11月26日	73	レプリカ	2
高崎市立国府小学校	6	12月10日	58	レプリカ	2
高崎市立八幡小学校	3	1月15日	92	飛ぶタネ	2
群馬県立前橋高等養護学校	高3	2月10日	8	レプリカ	1

富岡市立吉田小学校	6	2月16日	36	レプリカ	1
太田市立中央小学校	4	3月11日	67	飛ぶタネ	2
合	計		3,765		103

※授業内容は以下の通り

レプリカ:「化石のレプリカを作ろう」　植物化石：「植物化石を探そう」

飛ぶタネ：「飛ぶタネの模型を作ろう」　パウチ標本：「葉のパウチ標本を作ろう」

エ　ビデオ上映会　上映回数39回　参加者数　3,086名

上映作品	校種	上映回数	参加者数
「ドラえもん地球大探検」	小学校 幼稚園	31 2	2,567 149
「ドラえもん生きもの大探検」	小学校	1	94
「ハローキティドキドキ恐竜ワールド」	幼稚園	1	50
その他	小学校	4	226
計		39	3,086

オ　職場体験活動（中学校・高等学校）　計 12校・23日・延べ39名

学校名	学年	実施日	人数	内容	対応職員
高崎市立 片岡中学校	2	5月27日・ 28日	3	学芸業務に関わる資料整理	金井･髙栗･杉山･ 田中
県立松井田 高等学校	1	9月23日・ 24日	1	同上	高橋(克)･木村
甘楽町立 第二中学校	2	9月1日・ 2日	4	学芸業務に関わる資料整理・ 教育普及業務	高橋(克)･松本･ 上原･高橋(秀)･ 武井
安中市立松井 田南中学校	2	9月3日・ 4日	2	学芸業務に関わる資料整理	高橋(克)
吉井町立 入野中学校	2	9月3日・ 4日	2	学芸業務に関わる資料整理・ 教育普及業務	田中･高橋(秀)･ 武井
甘楽町立 第一中学校	2	9月29日・ 30日	4	学芸業務に関わる資料整理	金井･高橋(克)･ 田中
富岡市立 北中学校	2	10月1日・ 2日	4	学芸業務に関わる資料整理・ 教育普及業務	高橋(克)･大森･ 杉山･上原･ 高橋(秀)
富岡市立 南中学校	2	10月6日	4	同上	上原･高橋(秀)･ 武井
安中市立 第二中学校	2	10月8日・ 9日	4	同上	高橋(克)･松本･ 上原･高橋(秀)
富岡市立 富岡中学校	2	10月21日・ 22日	4	学芸業務に関わる資料整理	金井･高橋(克)･ 髙栗･杉山
富岡市立 西中学校	2	11月4日・ 5日	3	学芸業務に関わる資料整理・ 教育普及業務	高橋(克)･上原･ 高橋(秀)･武井

県立吉井 高等学校	1	12 月 9 日・ 10 日	4	学芸業務に関わる資料整理	高橋(克)・杉山

カ　教育用資料貸出　　延べ 50 団体

貸出先	貸出日	返却日	貸出資料	使用目的
富岡市立富岡中学校	4 月 18 日	4 月 25 日	レプリカ作成	理科授業
高崎市立倉賀野中学校	4 月 21 日	4 月 28 日	動物頭骨標本	理科授業
市川市立行徳小学校	6 月 28 日	6 月 19 日	学習ビデオ	国語授業
富岡市立高瀬小学校	6 月 16 日	6 月 20 日	昆虫標本	理科授業
富岡市立富岡小学校	6 月 19 日	7 月 1 日	動物頭骨標本、歯	歯科保健
富岡市立高田小学校	6 月 21 日	7 月 1 日	昆虫標本	理科授業
群馬県立富岡東高等学校	6 月 23 日	6 月 30 日	液体窒素	科学部
安中市立後閑小学校	7 月 1 日	7 月 3 日	昆虫標本	理科授業
甘楽町立第二中学校	7 月 2 日	7 月 10 日	動物頭骨標本、歯	理科授業
高崎市立入野小学校	7 月 4 日	7 月 18 日	昆虫標本	理科授業
高崎市立南八幡小学校	7 月 8 日	7 月 11 日	カラス標本	国語授業
高崎市立入野小学校	7 月 15 日	7 月 16 日	液体窒素	科学部
高崎立多胡小学校	7 月 20 日	7 月 22 日	屈折望遠鏡	観望会
高崎立高松中学校	7 月 23 日	7 月 29 日	レプリカ作成	科学部
甘楽町立新屋小学校	7 月 28 日	7 月 31 日	屈折望遠鏡	観望会
高崎市立多胡小学校	7 月 28 日	7 月 31 日	反射望遠鏡	観望会
生涯学習センター	7 月 30 日	8 月 6 日	オオタカ骨格標本	ｻｲｴﾝｽｳｨｰｸ
群馬大学工学部	8 月 15 日	8 月 23 日	レプリカ作成	理科教育法 B
甘楽町立新屋小学校	8 月 26 日	9 月 6 日	屈折望遠鏡	観望会
安中市立第一中学校	9 月 4 日	9 月 9 日	動物頭骨標本	理科授業
富岡市立黒岩小学校	9 月 5 日	9 月 8 日	オオツノジカの角	国語授業
富岡市立富岡小学校	9 月 10 日	9 月 10 日	液体窒素	クラブ活動
高崎市立片岡中学校	9 月 10 日	9 月 19 日	動物頭骨標本	理科授業
富岡市立南中学校	9 月 15 日	9 月 18 日	動物頭骨標本	理科授業
群馬県立富岡東高等学校	9 月 17 日	9 月 18 日	液体窒素	理科授業
甘楽町立第一中学校	9 月 23 日	9 月 25 日	動物頭骨標本	理科授業
高崎市立豊岡中学校	10 月 4 日	10 月 9 日	動物頭骨標本、歯	理科授業
藤岡市立西中学校	9 月 30 日	10 月 12 日	動物頭骨標本	理科授業
安中市立秋間小学校	10 月 3 日	10 月 4 日	液体窒素	PTA 行事
富岡市立西小学校	10 月 9 日	10 月 15 日	レプリカ作成	クラブ活動
安中市立秋間小学校	10 月 10 日	10 月 10 日	液体窒素	PTA 行事
明和県央高等学校	10 月 14 日	10 月 28 日	レプリカ作成	理科授業
安中市立秋間小学校	10 月 22 日	10 月 24 日	液体窒素	PTA 行事
下仁田町立下仁田小学校	11 月 3 日	11 月 15 日	動物頭骨標本、歯	保健指導
藤岡市立第二小学校	11 月 14 日	11 月 28 日	レプリカ作成	理科授業
高崎市立六郷小学校	11 月 20 日	11 月 27 日	レプリカ作成	理科授業
前橋市立上川淵小学校	11 月 20 日	12 月 1 日	レプリカ作成	理科クラブ
安中市立秋間小学校	11 月 28 日	12 月 1 日	液体窒素	PTA 行事

中之条町立中央公民館	12 月 4 日	12 月 5 日	レプリカ作成	少年教室
神流町教育委員会	12 月 12 日	12 月 18 日	反射望遠鏡	星空観察会
高崎市立多胡小学校	12 月 16 日	12 月 19 日	化石セット 屈折望遠鏡	観望会
安中市立九十九小学校	1 月 16 日	1 月 21 日	レプリカ作成	理科授業
明和県央高等学校	1 月 16 日	1 月 23 日	動物頭骨標本、歯	理科授業
甘楽町立新屋小学校	1 月 20 日	1 月 23 日	反射、屈折望遠鏡	星空観察会
富岡市立吉田小学校	2 月 6 日	2 月 20 日	動物頭骨標本	保健指導
富岡市立黒岩小学校	2 月 17 日	2 月 20 日	反射、屈折望遠鏡	星空観察会
下仁田町立西牧小学校	2 月 21 日	2 月 24 日	反射、屈折望遠鏡	星空観察会
前橋市立南橘中学校	3 月 6 日	3 月 20 日	化石セット	理科授業
渋川市立古巻中学校	3 月 18 日	3 月 27 日	レプリカ作成	理科授業
藤岡市立鬼石中学校	3 月 21 日	3 月 25 日	化石セット	理科授業

※貸出資料名

レプリカ作成：「化石のレプリカ作成セット」　昆虫標本：「昆虫標本セット」
頭骨標本：「動物頭骨標本」　歯：「歯のレプリカセット」
化石セット：「いろいろな化石セット」　反射望遠鏡：「反射式天体望遠鏡」
屈折望遠鏡：「屈折式天体望遠鏡」

④ 博物館実習

学芸員資格取得のため、当館での実習を希望した学生を対象に博物館実習を行った。

・募集期間：平成 21 年 4 月 1 日（水）～4 月 30 日（木）
・受入期間：平成 21 年 7 月 29 日（水）～8 月 8 日（土）〔実質 10 日間〕
※1 名については、下記インターンシップにあわせて 8 月 24 日（月）～9 月 3 日（木）で実施
・大学別受入人数：　6 名

学校名	人数	学校名	人数	学校名	人数
群馬大学	1 名	茨城大学	1 名	東京農業大学	2 名
高崎経済大学	1 名	静岡大学	1 名		

・主な実習内容：博物館の組織・業務についての講義
常設展示、企画展示コンセプトについての講義及び見学
教育普及活動実習（サイエンスサタデー）
資料整理実習（植物、昆虫、哺乳類、魚類、岩石、古生物）
企画展計画立案・展示製作実習（「かくれる!?まねる!?～ふしぎなむしの世界～」

⑤ インターンシップ

大学の学外実習として、実習生を受け入れた。

・実習期間：平成 21 年 8 月 20 日（水）～9 月 3 日（木）〔実質 14 日間〕
・所属大学：日本大学生物資源学部　　2 名
・主な実習内容：資料整理業務

3　資料収集・管理

(1) 収蔵資料数

No.	分 野	21 年度	全 登 録
1	哺乳類	201	1151
2	鳥類	547	1,662
3	両生・爬虫類	9	576
4	魚類・円口類	38	718
5	昆虫	8,255	37,145
6	クモ類	0	47
7	甲殻類	4	461
8	その他の節足動物	0	2
9	軟体動物	8,073	10,025
10	その他の無脊椎動物	6	135
11	ロット標本	0	578
12	種子植物	2,960	43,158
13	シダ植物	571	5126
14	蘚苔類	164	669
15	藻類	0	318
16	地衣類	39	313
17	菌類	247	2929
18	細菌類	0	0
19	人類	0	1909
20	古動物	169	4005
21	古植物	1	2627
22	岩石	105	1178
23	鉱物	12	1715
24	環境・地質現象	42	43
	合　計	21,443	116,490

(2)　資料購入

No.	資 料 名 称	分 野	数量	購入先
1	シマウマ頭骨レプリカ(教育用・貸出用標本)	哺乳類	1	ゼネラル サイエンス
2	クロイワヤギ頭骨レプリカ(教育用・貸出用標本)	哺乳類	1	同上
3	ブタ頭骨レプリカ(教育用・貸出用標本)	哺乳類	1	同上

(3)　委託製作資料・資料整理・資料修復

No.	委 託 名 称	分 野	数量	委 託 先 名 称	用途
1	群馬県鉱物資料調査業務委託	鉱　物	一式	ホリミネラロジー 株式会社	収蔵
2	哺乳類剥製・骨格作製業務委託	哺乳類	7	有限会社 尼ヶ崎剥 製標本社	展示

3	肉鰭類化石複製品作製業務委託	古生物	3	株式会社 プラニー商会	展示
4	ナガレヒキガエル交連骨格標本作製業務委託	両生類	1	有限会社 尼ヶ崎剥製標本社	展示
5	サンチュウリュウ復元図制作業務委託	古生物	1	小田　隆	展示

(4)　寄贈資料・管理移管資料

No.	受 贈 資 料 名 称	分 野	数 量	受 贈 者	受付年月日
1	妙義町産 ウミガメ化石標本	古生物	1	三田　照芳	H21.5.9
2	桐生市梅田産化石等標本	古生物	146	大津　慎一	H21.5.22
3	群馬県産植物標本	植物	1170	須藤　志成幸	H21.5.22 ～11.26
4	藤岡市産自然金標本	鉱物	1	春山　崇	H21.5.27
5	シーラカンス置物	魚類	2	財団法人 目黒寄生虫館	H21.6.16
6	トクサオカチョウジガイ	貝類	1	吉田　廣雄	H20.7.29
7	「The bone」等、 骨に関する科学映画	生物	4	NPO法人　科学映像館を支える会	H21.8.11
8	キュビエムカシカイマンピラニア等標本	生物	4	佐藤　幸江	H21.8.30
9	太田市産カブトエビ類 化石標本	古生物	1	石原　克彦	H21.10.20
10	チョウ類標本	昆虫	8	小暮　市郎	H21.10.20
11	ティタノサウルス類 実物脊椎化石標本	古生物	1	長谷川　善和	H21.10.28
12	自然金標本	鉱物	1	春山　崇	H21.11.4
13	昆虫標本	昆虫	一式 (ﾄﾞｲﾂ箱 6箱)	群馬県 自然保護連盟	H21.11.4
14	300mmφ シリコンウエハー	地学	一式	信越半導体 株式会社	H21.11.1
15	チョウ類標本	昆虫	18	神田　正明	H21.11.25
16	貝類資料	貝類	33	大谷　洋子	H21.11.30
17	ホタテガイ類 大型産状化石標本	古生物	1	長谷川　善和	H22.1.18
18	スピノサウルス 実物化石標本	古生物	3	長谷川　善和	H22.1.24
19	ウラモジタテハ等 昆虫標本	昆虫	22	篠原　豊	H22.3.17
20	アカウミガメ剥製標本	爬虫類	1	長谷川　靖代	H22.3.17
21	アリ類乾燥標本	昆虫	33	木暮　翠	H22.3.17

22	オオミノガ等昆虫、 カンテンコケムシ標本	昆虫等	9	片山　満秋	H22.3.17
23	哺乳類剥製等(管理移管)			群馬県立高崎女子 高等学校	

(5)　寄託資料

No.	寄 託 資 料 名 称	数量	寄 託 者 名 称	寄託期間	備 考
	今年度は無し				

(6)　借用資料

No.	借用資料名称	数 量	借 用 先 名 称	借 用 期 間	備考
1	ストロマトライト 等岩石標本	9	神奈川県立 生命の星･地球博物館	H21.4.1 ～H22.3.31	継続
2	魚拓等シーラカンス 関係資料	23	個人	H21.4.10～9.30	
3	太田市産 節足動物化石	1	石原　克彦	H21.4.21～10.19 (10.20 寄贈)	
4	金ナゲット等	5	野尻　元恵	H21.5.27～8.31	
5	シーラカンス 解剖映像	1	ワック株式会社	H21.6.1～9.15	使用料
6	シーラカンス類 化石標本	4	国立科学博物館	H21.6.10～9.18	
7	シーラカンス 関係資料	25	財団法人 目黒寄生虫館	H21.6.10～9.30	
8	シーラカンス 関係資料	8	坂口　好孝	H21.6.14～9.30	
9	シーラカンス レプリカ等	5	京急油壺マリンパーク	H21.7.2～9.14	
10	アレニプテルス 復元模型	1	守亜　和由紀	H21.7.11～9.30	
11	骨粗鬆症画像	6	骨の健康づくり委員会	H21.8.15～12.11	
12	「骨と形」 出張展示等	一式	ＪＴ生命誌研究館	H21.8.31～11.26	
13	靭帯付膝関節模型	1	日本スリービー・サイ エンティフィック(株)	H21.9.5～12.6	
14	ジャイアントパンダ 剥製等	17	国立科学博物館	H21.9.8～12.6	
15	シマウマ等 骨格標本	8	神奈川県立 生命の星・地球博物館	H21.9.10～11.30	
16	ニホンオオカミ 下顎骨	1	小山　宏	H21.10.21 ～H22.2.28	
17	カミキリムシ類 標本	20	村田　元彦	H21.12.8 ～H22.5.20	

18	ホッカイドルニス 正基準標本レプリカ	1	足寄動物化石博物館	H22.1.1～12.31	
19	スキップバック・ レコーダー	1	株式会社 アイ・ティーオー	H22.2.15～2.28	
20	オオムラサキ等 異常型昆虫標本	5	群馬県立 ぐんま昆虫の森	H22.2.28～5.15	
21	魚類化石･映像	678	財団法人 福岡文化財団	H21.7.11～8.30	

(7)　貸出資料

No.	貸 出 資 料 名 称	数量	貸 出 先 名 称	貸 出 期 間
1	オサガメ全身骨格等	12	東海大学自然史博物館	H20.12.16～ H21.4.10(継続)
2	プテロダウストロ 全身骨格	1	福岡県青少年科学館	H21.1.26～4.10 (継続)
3	コエラカントゥス等 シーラカンス類化石	2	財団法人ふくしま海洋科学館	H21.2.24～6.30 (継続)
4	アクセルロディクティス等 シーラカンス類化石	2	財団法人ふくしま海洋科学館	H21.2.24～6.30 (継続)
5	アブラナ、チョウ頭部等 植物・昆虫拡大模型	6	群馬県立ぐんま昆虫の森	H21.2.27～5.15 (継続)
6	鳥類・獣類標本	120	群馬県環境森林部 (野鳥の森鳥獣資料館)	H21.3.27～ H24.3.26(継続)
7	ディメトロドン 足跡化石等	17	ミュージアムパーク 茨城県自然博物館	H21.6.18～9.30
8	キンバレー岩中 ダイヤモンド等	59	埼玉県立自然の博物館	H21.4.22～10.4
9	ティランノサウルス 頭骨化石レプリカ等	35	久慈琥珀博物館	H21.4.24～6.17
10	アクリオケラス等 アンモナイト化石	18	久慈琥珀博物館	H21.4.24～12.4
11	スローロリス剥製、 植物レプリカ等	37	群馬県立ぐんま昆虫の森	H21.4.25～8.30
12	昆虫・三葉虫化石	12	群馬県立ぐんま昆虫の森	H21.4.25～ H22.4.25
13	クサリサンゴ化石標本等	12	佐野市葛生化石館	H21.6.16～10.15
14	ティランノサウルス 頭骨化石レプリカ等	3	久慈琥珀博物館	H21.6.17～9.30
15	プテロダウストロ 全身骨格化石レプリカ等	6	沖縄県立博物館・美術館	H21.6.18～9.5
16	三葉虫のはい跡化石等	2	ミュージアムパーク 茨城県自然博物館	H21.6.18～9.30
17	カマラサウルス幼体 全身骨格化石等	21	株式会社大分放送	H21.6.22～8.31

18	スプリッギナ等化石標本	7	千葉県立中央博物館	H21.6.25～9.15
19	鳥類卵レプリカ、剥製、 魚類アクリル封入標本等	191	群馬県立日本絹の里	H21.7.6～8.18
20	ダーウィン書簡、スピノ サウルス上顎骨化石等	28	日本経済新聞社 イベント事業本部	H21.7.8～9.27
21	ヘラジカ頭部剥製標本	1	野尻湖ナウマンゾウ博物館	H21.7.8～12.24
22	一本杉層産 軽石質凝灰角礫岩標本等	5	群馬県立 土屋文明記念文学館	H21.8.6～11.25
23	ティランノサウルス 頭骨化石レプリカ	1	久慈琥珀博物館	H21.10.1～12.4
24	岩宿遺跡採集資料 (鹿間時夫資料)	24	岩宿博物館	H21.10.1～12.11
25	シーラカンス類化石 (画像データ)	2	株式会社ＴＢＳビジョン	H21.10.7～10.9
26	山中層群産ベレムナイト	1	伊庭　靖弘 (国立科博・特別研究員)	H21.12.25～ H22.5.31
27	スピノサウルス類等 神流町産恐竜化石	2	神流町恐竜センター	H22.1.24～1.28
28	エオラプトル全身骨格等	21	那須野が原博物館	H22.6からの 貸出許可のみ
29	スピノサウルス類化石 レプリカ等	4	和歌山県立自然博物館	H22.3.17～9.30
30	群馬関係の鉱石等 画像資料	9	群馬県庁企画部(企画係)	H22.3.29～

(8)　特別観覧

No.	観覧資料名称	数	特別観覧申請者		申請期間	備考
1	トリケラトプス等 恐竜化石	6	京都大学大学院	黒須弘美	H21.6.2 ～6.3	
2	カマラサウルス	1	福井放送株式会社	野田美佳子	H21.6.9	
3	齧歯目等 哺乳類骨格標本	15	さいとう接骨院	斎藤義之	H21.8.25	
4	人類展示ジオラマ (アファール猿人、 ネアンデルタール人)	2	ワック(株) (東京ＭＸＴＶ 番組製作のため)	廣澤秀郎	H21.12.16	有料
5	魚竜頭骨 (ステノプテリギウス)	1	RC GEAR	横山隼	H21.12.21	有料

(9)　画像等使用許可

No.	使用画像名称	数	使用者名称	使用開始日
1	化石標本 (セイモウリア、トリケラトプス)	2	株式会社新潮社 (月刊誌「波」連載記事)	H21.4.20
2	アウストラロピテクス(肉付・骨格)	2	株式会社ジーニアスエデュケーション(学習雑誌)	H21.5.13

3	化石標本 (ディメトロドン、トゥリナクソドン、 ウインタテリウム、ヒアエノドン、 ホプロフォネウス、ヒラコテリウム)	6	株式会社新潮社 (月刊誌「波」連載記事)	H21.6.20
4	クロサンショウウオ	1	株式会社ＮＨＫエデュケーショナル(携帯端末放送での再利用)	H21.7.21
5	群馬県産ラブカ歯化石等	3	上毛新聞社(ぐんまの大地)	H21.7.31
6	ネコ骨格標本	5	株式会社国際メディア・コーポレーション(NHK 海外向放送等での再利用)	H21.8.1～ H26.7.31
7	ハナガサミドリイシ(サンゴ)	1	佐野市立葛生化石館(展示)	H21.8.1
8	ネアンデルタール人のジオラマ	1	株式会社山川出版社 (教科書)	H21.8.25
9	化石標本(ボスリオレピス、 メセノサウルス、スカウメナキア)	3	朝日新聞出版 (月刊化石コレクション)	H21.10.2
10	シーラカンス類化石 (カリドスクトール、コエラカントゥス、ホワイティア)	3	株式会社ＴＢＳビジョン (地上波放送)	H21.10.7
11	トリブラキディウム等化石標本	11	株式会社新潮社 (単行本掲載)	H21.11.1
12	ブラキオサウルス	2	朝日新聞出版 (月刊化石コレクション)	H21.11.9
13	石墨	1	株式会社ベネッセコーポレーション(再使用)	H21.11.20
14	神流町産スピノサウルス類等 化石標本	5	神流町恐竜センター(展示)	H21.12.20
15	ディノサウロイド	1	株式会社オフィス・トゥー・ワン(地上波放送)	H21.12.23
16	エコボール関係	3	株式会社ベネッセコーポレーション(学習雑誌)	H21.12.25
17	ロボクの一種	1	教育出版株式会社(教科書)	H21.12.27
18	エコボール	1	株式会社新興出版社啓林館 (教科書)	H22.1.22
19	ユーリー・ミラーの実験装置	1	朝日新聞出版 (月刊化石コレクション)	H22.2.1
20	ネアンデルタール人頭骨	1	株式会社ダン (小学館発行書籍に使用)	H22.2.9
21	ネコ骨格標本	1	株式会社ＮＨＫインターナショナル(国際放送再使用)	H22.3.3
22	トール石	1	株式会社ニュートンプレス (単行本掲載)	H22.3.27

(10)　燻蒸作業

No.	実 施 内 容		実 施 日	受 託 者	使 用 薬 剤
1	第二収蔵庫	殺虫	H20.6.22～6.30	中部資材株式会社	アイオガード
2	燻蒸庫	殺虫 殺カビ	H22.1.19～1.26	中部資材株式会社	アイオガード
3	燻蒸庫保守点検		H22.2.20	関東港業株式会社	
4	燻蒸庫	殺虫 殺カビ	H22.2.21～2.28	関東港業株式会社	アイオガード

(11)　科学系博物館情報ネットワーク開発事業自然史標本データ整備事業

国立科学博物館の科学系博物館情報ネットワーク開発事業及びＧＢＩＦ(地球規模生物多様性情報機構)の生物標本収蔵データベースネットワークへの参加に伴い、当館の収蔵データベースシステムにあるデータの加工・変換を行った.

- 変換データ数：8,000 件
- データ変換委託事業期間：平成 22 年 1 月 5 日～3 月 5 日
- データ変換業務委託先：東朋産業株式会社

4　調査研究

(1)　八ッ場地域の総合調査

平成 20 年度から 22 年度までの 3 ヵ年にわたり、吾妻郡長野原町（川原畑、川原湯、横壁、林、長野原地区の吾妻川流域）を対象として地学、生物（動物、植物）の総合的な調査を実施する。対象地域は八ッ場ダム建設予定地 2020 年度の運用開始に向け、移転代替地の整備や、道路・鉄道等の付け替え工事が進んでいる。埋没予定地域からも資料を収集し、採取を行い、1993 年に長野原町で実施した調査データとの比較をして、その後の変遷を詳らかにすることを目的としている。

①　調査内容

・哺乳類　:ネズミ類を中心に、トラップによる捕獲
・両生類・爬虫類　:カエル・サンショウウオ・ヘビ類を中心に捕獲
・昆虫類　:捕虫網・トラップによる捕獲
・無脊椎動物　:軟体動物を中心に捕獲
・高等植物・蘚苔類・地衣類　:採集
・菌類　:採集
・岩石　:採集もしくは工事関係者による資料提供

②　調査日および調査内容

	調査日	調査内容
第 1 回	5 月　3 日	高等植物
第 2 回	5 月 27 日	無脊椎動物
第 3 回	5 月 31 日	昆虫類
第 4 回	6 月 12 日	無脊椎動物
第 5 回	6 月 23 日	高等植物
第 6 回	6 月 26 日	昆虫類
第 7 回	7 月 10 日	昆虫類
第 8 回	7 月 15 日	昆虫類
第 9 回	7 月 23 日	菌類
第 10 回	8 月 12 日	無脊椎動物
第 11 回	8 月 15 日～16 日	昆虫類
第 12 回	8 月 27 日	菌類
第 13 回	8 月 28 日	無脊椎動物
第 14 回	9 月 13 日	高等植物
第 15 回	9 月 13 日～14 日	昆虫類
第 16 回	9 月 20 日	高等植物
第 17 回	9 月 30 日	菌類
第 18 回	10 月 29 日	菌類

(2)　山中層群の古生物学的研究

多野郡西部や甘楽郡西部に分布する山中層群は、群馬県を代表する中生代白亜紀前期の地層で、河口から海にかけて堆積したものである。この地層からは既に恐竜やアンモナイト、

植物など様々な化石が報告されているが、近年、この山中層群から多数のサメ類化石の産出が知られるようになった。白亜紀前期のサメ類群集は、現代型サメ類の発展を考える上で重要であるが、世界的に見てもその概要すら明らかでない。

本調査研究は、平成 17 年度から 19 年度にかけて実施した調査研究を継続するものであり、神流町恐竜センターと共同で山中層群（主に瀬林層）の発掘調査を行い、当時の生物相を明らかにすることを目的として実施している。

① 館外での調査等活動の実施日とその内容

	実施日	活動内容	活動場所
第 1 回	4 月 15 日	現地調査･研究打合せ等	神流町恐竜センター
第 2 回	4 月 27 日	研究打合せ	自然史博物館
第 3 回	5 月 16 日	現地調査･研究打合せ	神流町恐竜センター
第 4 回	7 月 10 日	研究打合せ	自然史博物館
第 5 回	10 月 22 日	研究打合せ	自然史博物館
第 6 回	12 月　6 日	研究打合せ	神流町恐竜センター

② 調査概略

平成 21 年度は、平成 17・18 年度の掘削後、神流町内に集積・保管してある脊椎動物化石多産層準の岩塊から引き続き化石の採集ならびにその剖出作業を実施した。この作業は昨年度同様、神流町恐竜センターが募集した「神流で恐竜見つけ隊」参加者の協力によるものである。調査開始時よりは産出量は減少しているものの、サメ類や軟体動物などの化石が得られた。研究面では、これまでの調査で採集された、大型脊椎動物の歯と覚しき化石について恐竜センターの久保田学芸員を中心に研究を進めており、当館の長谷川館長に標本を実見してもらって助言を得た。また、この研究のために、米シカゴ市・デポール大学の K. Shimada 講師から比較標本 1 点の提供を受けた。また、今後の 2 館の博物館活動で活用できるように、サンチュウリュウの復元図作成を小田隆氏（成安造形大学講師）に委託した。

なお、平成 21 年 8 月に開催予定だった第５回国際中生代魚類会議（於　メキシコ・サルティーヨ市）において、瀬林層産サメ類群集に関するポスター発表（Takakuwa, Y. and Sato, K., Barremian shark assemblage from Japan: New record from Western side of Panthalassa）を予定していたが、同会議自体が諸事情により延期となったために実施できなかった。

(3) 美術館・博物館調査研究

「野生動物の生態調査」

群馬県西部地域を中心に野生動物の生態調査を行った。調査対象地域において痕跡調査およびカメラトラップ調査を実施した。その結果、テン、タヌキ、シカ、サルなど多様な動物の存在を確認した。野生動物の生息状況については、里地、中山間、奥山のつのゾーンにおける長期的なモニタリングが必須であり、今後も継続して行っていく予定である。なお、今年度の結果については、論文（報告）としてまとめ、投稿予定である。

(4) 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業

「営農管理的アプローチによる鳥獣害防止技術の開発」

平成 19 年度から平成 21 年度の 3 カ年にわたり、中課題「イノシシの生息個体数推定

技術と効率的な個体数調整技術の開発」の小課題「イノシシにおける個体群パラメーターの解明」について、（独）中央農業総合研究センターより受託研究を実施した。

本研究は、有害鳥獣駆除や狩猟により捕獲されたイノシシのサンプル（頭骨、子宮、卵巣、胎児）を用いて、歯牙の萠出・交換やセメント質年輪法などに基づく年齢査定を行い、年齢別妊娠率や胎児数、また捕殺パターンを調査し個体群パラメーターを推定するものである。平成 21 年度は、年度当初より対象地域をさらに増やし、新規にデータ、サンプル収集の体制を構築し、サンプルの増加をはかるとともに、分析を継続した。また、収集したデータを平成 19､20 年度の成果と比較することで、イノシシの年齢別の繁殖状況とその経年変化について明らかにすることを目的とした。

2007 年 4 月から 2010 年 3 月中旬までに収集され、剖検が終了した検体は 611 個体である（頭骨のみ、骨格のみの個体も含む）。収集地域は、吾妻郡、甘楽町、桐生市、旧松井田町､太田市､渋川市である。

群馬県では生後 2 年目以降から妊娠個体が確認され､妊娠が確認された時期は､年度によって若干のずれはあるが､12 月～8 月と幅広く､その結果､出産推定時期も 2 月～9 月と幅広くなることが明らかとなった｡年度によってそのピークの有無､あるいは､時期は異なることも示された｡胎児の数は 1～9 頭と幅が広く､4 頭を有する個体が多く認められた｡また､胎児の性比は､出産直前のサイズに限って個体によって若干のゆらぎはあるものの､全体を通してみるとほぼオス 1：メス 1 であることも確認された｡また､今回得られたパラメーターをもとに仮説的に個体数の増加のモデルを作成した｡今年度までの成果については､論文としてまとめ､学会誌に投稿した｡今後は、県内の地域間における傾向の相違および経年変化を把握するため研究を継続する。

(5) 群馬県野生動物調査・対策報告会（2009）の実施

群馬県内で行われている野生動物に係わる取り組みについて､実務を担う県・市町村担当者より報告を行うものである｡2008 年度より開始し､対象は､一般参加者である｡第 2 回目となる本年度の報告は 16 課題あり､県自然環境課､県立自然史博物館､県水産試験場､県林業試験場､桐生森林事務所､沼田市､太田市､桐生地区農業指導センターの他に､尾瀬保護財団､環境省､(財)自然環境研究センターが報告した｡主催は群馬県（県自然環境課､県技術支援課､県立自然史博物館）､実施場所は自然史博物館学習室､参加人数は 160 人であった｡なお､作成した報告会資料は､当館 HP よりダウンロード可とした｡

(6) 全国科学博物館協議会・平成２１年度海外先進施設調査

テーマ：「自然科学系博物館における New to Science
－科学的新知見の一般社会へのフィードバックの現状とその手法－ 」

調査期間：平成２１年１１月１６日（月）～２６日（木）

調査者：　学芸係　副主幹（学芸員）　髙桒　祐司

調査先：　ニューヨーク州ニューヨーク市　アメリカ自然史博物館
イリノイ州シカゴ市　フィールド博物館
カリフォルニア州サンフランシスコ市　カリフォルニア科学アカデミー
カリフォルニア州サンフランシスコ市　エクスプロラトリウム

海外先進施設調査は、全国科学博物館協議会が財団法人カメイ社会教育振興財団の助成により、博物館職員の内外研修として実施している事業で、これからの博物館事業を支えていく主に若手職員に対し、海外の先進博物館を調査・研究する機会

をはかり、職員の研鑽、および博物館事業の振興に寄与することを目的としている。

平成２１年度には、学芸係職員１名が提出した上記テーマが選ばれたため、全国科学博物館協議会からの派遣でアメリカ合衆国内の４館に出張し、調査を行った。

調査の結果、調査研究活動やその活動によって得られた研究成果の広報活動に関して、館ごとに独自の考え方を持っていることがわかった。また館の研究成果を含む科学的新知見を新たに展示や教育普及に導入する際には、事業実施に必要な資金を外部団体（企業や財団）から取得する事例が多いことがわかり、日本との大きな違いが見いだされた。一方、日本では、新種の生物など話題性のある資料について期間を絞って特別に展示する事例が多いが、視察した４館ではあまり実施していない。こうした活動については、来館者ニーズに対して臨機応変に対応している日本側の博物館が優れている。

(7) 群馬県立自然史博物館研究報告第 14 号の発行

内容は、論文 17 編（原著論文 10、短報 5、資料 4、技術報告 1、雑報 1）である。

5 情報システム

自然史博物館情報システムは平成 20 年度より第三次システムの運用を開始した。システム概要は以下の通りである。情報システムは 5 つのサブシステムから構成されており、これらが相互連携して機能することにより、来館者、外部利用者、館職員が利用しやすいように設計されている。

(1) 収蔵品管理システム

収蔵資料の属性データをデジタル化して一元管理するためのシステムである。データは属性情報だけでなく画像等の管理も行っている。また、一元管理されたデータは、展示情報システム、普及広報システムと連携を図り有効活用している。使用しているソフトウェアは MusethequeV3　である。

(2) 展示情報システム

情報コーナー展示システム、常設展示用展示システム、来館案内（プラズマディスプレイ）の 3 つからなる。収蔵情報・クイズ・ビデオ・図書情報が簡単な操作で見られるように構成されており、館内の情報コーナー及び各展示コーナーの端末で利用できる。収蔵情報は収蔵品管理システムと連動しており、新たな収蔵品の情報を直ちに見ることができる。ビデオ番組は、群馬県内の自然環境および景勝地などを過去に撮影したもの等、合計 200 タイトルを保有している。来館案内は、企画展、イベントの情報を常時配信している。

(3) 図書文献管理システム

館所蔵の図書文献を管理し、図書情報の検索に活用している。収蔵情報は展示情報システム、普及広報システムに反映され、来館者が図書室、情報コーナーに保管している図書を検索できる。

(4) 普及広報システム

インターネット上で、イベント、博物館活用ネットワーク、友の会、ボランティア、収蔵品、図書、博物館実習等の各情報や、施設案内・博物館だよりなどを紹介している。展示室・イベント情報については動画配信を行っている。学習用ワークシート、調査報告書、博物館便り（デメテール）は、すべて HP からダウンロードできる。また、イベントや団体・学校利用に関する質問、博物館の資料・展示・研究に関する質問、システム・ホームページに関する質問についてそれぞれ電子メールでの対応も行っている。

(5) 学習支援システム

学校から学年単位などの団体で来館し、展示室で課題解決学習を行いたいという要望に応える形で作成したプログラムである。児童・生徒が各コーナーの展示資料の見方や展示場所をコンピュータで調べ、実物の資料を観察ながら学習できるシステムである。

６　広報・出版事業

(1)　広報（情報発信）・広告・取材

博物館の広報誌「デメテール(群馬県立自然史博物館だより)」を年 3 回、イベントカレンダーを年 2 回発行し配布するとともに、各企画展に際してポスター・チラシを学校、関係機関、友の会会員等に配布した。また、見学予定の団体に対してプロモーション用ビデオの貸出を行った。さらに写真･資料を雑誌･広報誌等に提供し、館および企画展を紹介した。

①　プロモーション用ビデオの貸出

平成 21 年度貸出件数　121 件

②　活字媒体への資料提供

出版社等	掲載誌（紙）	月　日	内　容
中木新聞店	ニューライフ 富岡	2009. 4	企画展「わかった!かわった?ぐんまの自然」 サイエンス・サタデー「イヌワシ型グライダーをつくろう」の紹介
富岡市・ 甘楽町	夢ふうせん （70 号）	2009. 4	博物館イベント情報の紹介
上毛新聞社	グラフぐんま ４月号	2009. 4	ファミリー自然観察会 「吾妻峡の岩石と植物」の紹介
高崎市 教育委員会	子ども活動デー	2009. 4	イベント情報（４月～６月）
平成出版	みーつけた	2009. 4	博物館の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009. 4. 1	企画展自然教室の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009. 4. 2	サイエンス・サタデー 「イヌワシ型グライダーをつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009. 4. 3	学芸員リレートークの紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009. 4. 4	バックヤードツアーの紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009. 4. 5	企画展「わかった！かわった？ぐんまの自然」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009. 4. 7	連続掲載ぐんまを探る 「群馬でさぐる恐竜時代のサメ」
上毛新聞社	上毛新聞	2009. 4. 8	連続掲載ぐんまを探る 「群馬にもいたアメリカ西海岸のカサガイ」
上毛新聞社	上毛新聞	2009. 4. 9	連続掲載ぐんまを探る 「群馬で発見された新鉱物アンモニオ白榴石」
上毛新聞社	上毛新聞	2009. 4. 10	連続掲載ぐんまを探る 「子どもの大発見－古代のクジラ－」
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009. 4. 12	ファミリー自然観察会 「吾妻峡の岩石と植物」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009. 4. 14	連続掲載ぐんまを探る 「激減するアサマシジミ」
上毛新聞社	上毛新聞	2009. 4. 15	連続掲載ぐんまを探る 「激増するツマグロヒョウモン」
上毛新聞社	上毛新聞	2009. 4. 16	連続掲載ぐんまを探る 「増え続ける群馬の外来植物」

上毛新聞社	上毛新聞	2009.4.19	連続掲載ぐんまを探る 「用水トンネルにはびこるカワヒバリガイ」
上毛新聞社	グラフぐんま ５月号	2009.5	ファミリー自然観察会 「水生昆虫－自由研究の参考に－」の紹介
株式会社 ディーエム エス	ＭＯＣＯ	2009.5	博物館の紹介
中木新聞店	ニューライフ 富岡	2009.5	サイエンス・サタデー 「火山灰から宝石を見つけよう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんま ちゃんの掲示板」	2009.5.1	サイエンス・サタデー 「火山灰から宝石を見つけよう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんま ちゃんの掲示板」	2009.5.16	ファミリー自然観察会 「水生昆虫－自由研究の参考に－」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんま ちゃんの掲示板」	2009.5.17	自然史講座「尾瀬の自然と現状」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんま ちゃんの掲示板」	2009.5.31	移動博物館の紹介
富岡市・ 甘楽町	夢ふうせん （71 号）	2009.6	博物館イベント情報の紹介
パリッシュ 出版	月刊パリッシュ	2009.6	天体観望会「太陽の観察」の紹介
上毛新聞社	グラフぐんま ６月号	2009.6	ファミリー自然観察会 「水生昆虫－自由研究の参考に－」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.6.19	自然史講座「カンブリア紀におきた地球生命史上の大事件」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんま ちゃんの掲示板」	2009.6.19	天体観望会「太陽の観察」の紹介
上毛新聞社	グラフぐんま 7 月号	2009.7	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんま ちゃんの掲示板」	2009.7.2	サイエンス・サタデー「動物が走るアニメゴマをつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞 「ぐんまちゃんの 掲示板」	2009.7.10	企画展講演会「シーラカンスの謎と不思議②～生きた化石の姿にせまる～」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞 「ぱれっと」	2009.7.10	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介
群馬東部 よみうり 新聞社	ビバ！アミーゴ (群馬よみうり)	2009.7.17	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞 「気になる 情報ぱれっと」	2009.7.17	天体観望会「日食観察」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞 「気になる 情報ぱれっと」	2009.7.24	読者プレゼント 「企画展シーラカンスの謎に迫る」
日本経済 新聞社	日本経済新聞	2009.7.28	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介
富岡市・ 甘楽町	夢ふうせん （72 号）	2009.8	博物館イベント情報の紹介
上毛新聞社	グラフぐんま 8 月号	2009.8	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジルの化石と大陸移動の証人たち～」サイエンス・サタデー「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介

読売新聞社	読売新聞	2009.8.6	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞 「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.8.6	サイエンス・サタデー 「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介
朝日新聞社	朝日新聞	2009.8.7	博物館の紹介
上毛新聞社	上毛新聞 「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.8.9	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介
中木新聞店	ニューライフ 富岡	2009.9	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.9.5	企画展自然教室 「骨の仕組みをみてみよう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.9.10	サイエンス・サタデー 「飛ぶタネの模型をつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「気になる情報ぱれっと」	2009.9.11	読者プレゼント「企画展ＢＯＮＥＳ」
上毛新聞社	上毛新聞「気になる情報ぱれっと」	2009.9.11	移動博物館のお知らせ
上毛新聞社	上毛新聞 「テレナイン」	2009.9.18	読者プレゼント「企画展ＢＯＮＥＳ」
朝日新聞社	朝日ぐんま	2009.9.18	秋のお出かけ情報「企画展ＢＯＮＥＳ」
上毛新聞社	上毛新聞	2009.9.25	ファミリー自然観察会 「みかぼ山の地質と植物」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.9.28	自然教室 「頭骨や歯から動物の名前をしらべよう」の紹介
日本経済新聞社	日本経済新聞	2009.9.29	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介
上毛新聞社	グラフぐんま 10月号	2009.10	サイエンス・サタデー 「ライオンの歯のレプリカをつくろう」の紹介
でりじぇい	Deli－Ｊ	2009.10	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介
富岡市・甘楽町	夢ふうせん （73号）	2009.10	博物館イベント情報の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.10.2	サイエンス・サタデー 「ライオンの歯のレプリカをつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.10.3	ナイトツアーの紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.10.8	自然教室 「頭骨や歯から動物の名前をしらべよう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.10.11	企画展講演会 「骨の形には意味がある！」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「気になる情報ぱれっと」	2009.10.16	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.10.31	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介
朝日新聞社	朝日新聞	2009.10.27	ファミリー自然観察会 企画展講演会の紹介
集英社	鉄道絶景の旅 no.18	2009.10.29	博物館の紹介
県広報課	ぐんま広報	2009.11	ファミリー自然観察会「冬鳥の観察」の紹介
上毛新聞社	グラフぐんま 11月号	2009.11	サイエンス・サタデー 「落ち葉でお面をつくろう」の紹介

富岡市・ 甘楽町	夢ふうせん （74 号）	2009.11	博物館イベント情報の紹介
上毛新聞社	上毛新聞 「テレナイン」	2009.11.1	読者プレゼント「企画展ＢＯＮＥＳ」その２
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.11.4	サイエンス・サタデー 「落ち葉でお面をつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.11.10	自然史講座 「顕微鏡で見るコケの世界」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.11.13	自然教室 「骨をならべて動物の骨格をしらべよう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.11.29	トナカイとトラの特別展示
パリッシュ出版	月刊パリッシュ	2009.12	サイエンス・サタデー 「偏光板万華鏡をつくろう」の紹介
群馬東部よみうり新聞社	ビバ！アミーゴ	2009.12	サイエンス・サタデー 「偏光板万華鏡をつくろう」の紹介
日本経済新聞社	日本経済新聞	2009.12.1	トナカイとトラの特別展示
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2009.12.3	サイエンス・サタデー 「偏光板万華鏡をつくろう」の紹介
パリッシュ出版	月刊パリッシュ	2010.1	サイエンス・サタデー 「北極星を見つける星座盤をつくろう」の紹介
中木新聞店	ニューライフ富岡	2010.1	サイエンス・サタデー 「北極星を見つける星座盤をつくろう」の紹介
上毛新聞社	グラフぐんま １月号	2010.1	サイエンス・サタデー 「北極星を見つける星座盤をつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.1.8	サイエンス・サタデー 「北極星を見つける星座盤をつくろう」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.1.10	自然史講座 「草地や農耕地に生息する猛禽類」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.2.17	サイエンス・サタデー 「土の中の微生物を観察しよう」の紹介
パリッシュ出版	月刊パリッシュ	2010.3	サイエンス・サタデー 「動物の足あとスタンプをつくろう」の紹介
でりじぇい	Deli－Ｊ	2010.3	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞「ぐんまちゃんの掲示板」	2010.3.3	サイエンス・サタデー 「動物の足あとスタンプをつくろう」の紹介
群馬東部よみうり新聞社	ビバ！アミーゴ	2010.3.12	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞 「テレナイン」	2010.3.14	読者プレゼント 「企画展むし 虫 ウォッチング」
朝日新聞社	朝日ぐんま	2010.3.19	春休みお出かけ情報 「企画展むし 虫 ウォッチング」
上毛新聞社	上毛新聞「気になる情報ぱれっと」	2010.3.26	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介

③ 取材対応

出版社等	掲載誌（紙）	月　日	内　容
日本経済新聞社	日本経済新聞	2009.4.10	「恐竜２００９－砂漠の奇跡－」
上毛新聞社	上毛新聞	2009.5.24	絶滅危惧種ラン科植物「キンラン」の紹介
(有)シンクリード	月刊 raifu	2009.6	博物館(展示室)の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.6.11	移動博物館の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.6.22	腕足類新種化石 (エオリットニア･キリュウエンシス)について
上毛新聞社	上毛新聞	2009.7.4	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.7.12	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介
毎日新聞	毎日新聞	2009.7.14	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.7.20	天体観望会「太陽の観察」の紹介
東京新聞社	東京新聞	2009.7.23	天体観望会「日食観察」の紹介
中木新聞店	ニューライフ富岡	2009.8	天体観望会「日食観察」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.8.24	自然史博物館探検隊の紹介
(有)シンクリード	月刊 raifu	2009.9	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.9.21	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.9.23	自然教室「骨の仕組みをみてみよう」の紹介
洋泉社	おもしろミュージアム	2009.10	博物館の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.10.2	企画展講演会「動物死体をよみがえらせる」
上毛新聞社	上毛新聞	2009.10.10	「オレンジ色のどじょう」の紹介
朝日新聞社	朝日新聞	2009.10.16	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介
パリッシュ出版	月刊パリッシュ	2009.11	野生動物について
上毛新聞社	上毛新聞	2009.11.19	ミュージアムナイトツアーの紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2009.12.1	博物館の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.1.16	新春お年玉クイズの紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.1.25	バックヤードツアーの紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.2.5	バックヤードツアーの紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.3.12	企画展講演会「自然界のウソ」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.3.14	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介
上毛新聞社	上毛新聞	2010.3.30	展示リニューアル (トリケラトプスの復元･尾瀬シアター)の紹介

④電波媒体

氏名	電波媒体	番組名等	放送内容	放送年月
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー 「ツバメ型グライダーをつくろう」の紹介	2009.4
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	バックヤードツアーの紹介	2009.4

アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	学芸員リレートークの紹介	2009.4
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展「わかった！かわった？群馬の自然」の紹介	2009.4
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「ツバメ型グライダーをつくろう」の紹介	2009.4
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	バックヤードツアーの紹介	2009.4
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	学芸員リレートークの紹介	2009.4
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	企画展「わかった！かわった？群馬の自然」の紹介	2009.4
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	ファミリー自然観察会「吾妻峡の岩石と植物」の紹介	2009.4.6
アナウンサーによる原稿読み	ＧＴＶ	ジャスト６	ファミリー自然観察会「吾妻峡の岩石と植物」の紹介	2009.4.6
高橋秀武	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「イヌワシ型グライダーをつくろう」の紹介	2009.4.9
大森威宏	ＮＨＫ総合テレビ	こんにちはいっと６けん	企画展「わかった！かわった？群馬の自然」の紹介	2009.4.14
高橋秀武	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「イヌワシ型グライダーをつくろう」の紹介	2009.4.17
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「火山灰から宝石を見つけよう」の紹介	2009.5
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然史講座「尾瀬の自然と現状」の紹介	2009.5
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ファミリー自然観察会「水生昆虫－自由研究の参考に－」の紹介	2009.5
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「火山灰から宝石を見つけよう」の紹介	2009.5
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	ファミリー自然観察会「水生昆虫－自由研究の参考に－」の紹介	2009.5
高橋秀武	ＦＭ群馬	群馬情報トッピング	自然史講座「尾瀬の自然と現状」の紹介	2009.5.7
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	ファミリー自然観察会「水生昆虫－自由研究の参考に－」の紹介	2009.5.15
アナウンサーによる原稿読み	ＧＴＶ	ジャスト６	ファミリー自然観察会「水生昆虫－自由研究の参考に－」の紹介	2009.5.15
高橋秀武	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然史講座「尾瀬の自然と現状」の紹介	2009.5.21
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「ガラスビーズを使った顕微鏡をつくろう」の紹介	2009.6
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然史講座「カンブリア紀におきた地球生命史上の大事件」の紹介	2009.6
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「ガラスビーズを使った顕微鏡をつくろう」の紹介	2009.6
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	自然史講座「カンブリア紀におきた地球生命史上の大事件」の紹介	2009.6
田中源吾	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	自然史講座「カンブリア紀におきた地球生命史上の大事件」の紹介	2009.6.4
田中源吾	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然史講座「カンブリア紀におきた地球生命史上の大事件」の紹介	2009.6.9

木村敏之	ＦＭ群馬	群馬情報 トッピング	企画展講演会「シーラカンスの謎と不思議① ～生きた化石の進化と大陸移動～」の紹介	2009. 6. 11
アナウンサーに よる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からの お知らせ	サイエンス・サタデー「動物が走るアニ メゴマをつくろう」の紹介	2009. 7
アナウンサーに よる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からの お知らせ	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジ ルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介	2009. 7
アナウンサーに よる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からの お知らせ	天体観望会「太陽の観察」の紹介	2009. 7
アナウンサーに よる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からの お知らせ	天体観望会「日食観察」の紹介	2009. 7
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からの お知らせ	サイエンス・サタデー 「動物が走るアニメゴマをつくろう」の紹介	2009. 7
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からの お知らせ	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジル の化石と大陸移動の証人たち～」の紹介	2009. 7
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からの お知らせ	天体観望会「太陽の観察」の紹介	2009. 7
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からの お知らせ	天体観望会「日食観察」の紹介	2009. 7
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ群馬	ジャスト６	天体観望会「太陽の観察」の紹介	2009. 7. 1
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	天体観望会「太陽の観察」の紹介	2009. 7. 1
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ群馬	ジャスト６	サイエンス・サタデー 「動物が走るアニメゴマをつくろう」の紹介	2009. 7. 6
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	サイエンス・サタデー 「動物が走るアニメゴマをつくろう」の紹介	2009. 7. 6
木村敏之	ラジオ高崎	群馬県からの お知らせ	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジ ルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介	2009. 7. 9
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジ ルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介	2009. 7. 10
武井郁也	ＦＭ いせさき	まん中・ぐん ま元気情報	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジ ルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介	2009. 7. 14
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	天体観望会「日食観察」の紹介	2009. 7. 17
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	天体観望会「日食観察」について	2009. 7. 23
木村敏之	ＦＭ群馬	群馬情報 トッピング	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジ ルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介	2009. 7. 28
アナウンサーに よる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からの お知らせ	サイエンス・サタデー 「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介	2009. 8
アナウンサーに よる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からの お知らせ	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジ ルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介	2009. 8
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からの お知らせ	サイエンス・サタデー 「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介	2009. 8
アナウンサーに よる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からの お知らせ	企画展「シーラカンスの謎に迫る～ブラジ ルの化石と大陸移動の証人たち～」の紹介	2009. 8
高橋秀武	ラジオ高崎	群馬県からの お知らせ	サイエンス・サタデー 「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介	2009. 8. 4
アナウンサーに よる原稿読み	群馬テレビ	おはようモー ニング	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介	2009. 8. 12
武井郁也	ＦＭ いせさき	まん中・ぐん ま元気情報	サイエンス・サタデー 「三葉虫のレプリカをつくろう」の紹介	2009. 8. 12

高橋秀武	ＦＭ群馬	群馬情報 トッピング	博物館ボランティアの新規募集	2009. 8. 27
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー 「飛ぶタネの模型をつくろう」の紹介	2009. 9
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	移動博物館の紹介	2009. 9
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展自然教室 「骨の仕組みをみてみよう」の紹介	2009. 9
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー 「飛ぶタネの模型をつくろう」の紹介	2009. 9
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からのお知らせ	移動博物館の紹介	2009. 9
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からのお知らせ	企画展自然教室 「骨の仕組みをみてみよう」の紹介	2009. 9
高橋秀武	ＦＭ群馬	群馬情報 トッピング	企画展講演会 「動物死体をよみがえらせる」の紹介	2009. 9. 8
高橋秀武	ＦＭ いせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展講演会 「動物死体をよみがえらせる」の紹介	2009. 9. 17
高橋秀武	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展講演会 「動物死体をよみがえらせる」の紹介	2009. 9. 24
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介	2009. 10
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー 「ライオンの歯のレプリカをつくろう」の紹介	2009. 10
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ミュージアムナイトツアーの紹介	2009. 10
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展自然教室「頭骨や歯から動物の名前をしらべよう」の紹介	2009. 10
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展講演会 「骨の形には意味がある！」の紹介	2009. 10
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からのお知らせ	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介	2009. 10
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー 「ライオンの歯のレプリカをつくろう」の紹介	2009. 10
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からのお知らせ	ミュージアムナイトツアーの紹介	2009. 10
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からのお知らせ	企画展自然教室「頭骨や歯から動物の名前をしらべよう」の紹介	2009. 10
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ いせさき	群馬県からのお知らせ	企画展講演会 「骨の形には意味がある！」の紹介	2009. 10
高橋秀武	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介	2009. 10. 2
姉崎智子	ＦＭ いせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介	2009. 10. 6
アナウンサーによる原稿読み	栃木ケーブルテレビ	お出かけ情報	博物館及び企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介	2009. 10. 19
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介	2009. 11
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ミュージアムナイトツアーの紹介	2009. 11
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	天体観望会 「夏と秋の星座、そして惑星」の紹介	2009. 11

アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「落ち葉でお面をつくろう」の紹介	2009.11
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展自然教室「骨をならべて動物の骨格をしらべよう」の紹介	2009.11
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	ファミリー自然観察会「冬鳥の観察」の紹介	2009.11
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然史講座「顕微鏡で見るコケの世界」の紹介	2009.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	企画展「ＢＯＮＥＳ」の紹介	2009.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	ミュージアムナイトツアーの紹介	2009.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	天体観望会「夏と秋の星座、そして惑星」の紹介	2009.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「落ち葉でお面をつくろう」の紹介	2009.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	企画展自然教室「骨をならべて動物の骨格をしらべよう」の紹介	2009.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	ファミリー自然観察会「冬鳥の観察」の紹介	2009.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	自然史講座「顕微鏡で見るコケの世界」の紹介	2009.11
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	企画展自然教室「骨をならべて動物の骨格をしらべよう」の紹介	2009.11.10
高橋秀武	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然史講座「顕微鏡で見るコケの世界」の紹介	2009.11.11
高橋秀武	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	自然史講座「顕微鏡で見るコケの世界」の紹介	2009.11.13
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	移動博物館の紹介	2009.12
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	天体観望会「秋と冬の星座、そして木星」の紹介	2009.12
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「偏光板万華鏡をつくろう」の紹介	2009.12
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	移動博物館の紹介	2009.12
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	天体観望会「秋と冬の星座、そして木星」の紹介	2009.12
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「偏光板万華鏡をつくろう」の紹介	2009.12
高橋秀武	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	サイエンス・サタデー「偏光板万華鏡をつくろう」の紹介	2009.12.1
アナウンサーによる原稿読み	ＧＴＶ	ジャスト６	「トナカイ・トラ」の特別展示の紹介	2009.12.1
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	あさナビ	「トナカイ・トラ」の特別展示の紹介	2009.12.4
高橋秀武	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「偏光板万華鏡をつくろう」の紹介	2009.12.9
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭ群馬	タウン情報	「トナカイ・トラ」の特別展示の紹介	2009.12.11
高橋秀武	ＦＭ群馬	群馬県からのお知らせ	天体観望会「秋と冬の星座、そして木星」の紹介	2009.12.15

武井郁也	ＦＭ群馬	群馬元気通信	「トナカイ･トラ」の特別展示の紹介	2009. 12. 31
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「北極星を見つける星座盤をつくろう」の紹介	2010. 1
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	天体観望会「秋と冬の星座、そして星団」の紹介	2010. 1
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然史講座「草地や農耕地に生息する猛禽類」の紹介	2010. 1
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	バックヤードツアーの紹介	2010. 1
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「北極星を見つける星座盤をつくろう」の紹介	2010. 1
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	天体観望会「秋と冬の星座、そして星団」の紹介	2010. 1
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	自然史講座「草地や農耕地に生息する猛禽類」の紹介	2010. 1
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	バックヤードツアーの紹介	2010. 1
武井郁也	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	自然史講座「草地や農耕地に生息する猛禽類」の紹介	2009. 1. 13
高橋秀武	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	自然史講座「草地や農耕地に生息する猛禽類」の紹介	2009. 1. 14
松本　功	ＦＭ群馬	あさナビ	バックヤードツアーの紹介	2010. 1. 25
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「土の中の微生物を観察しよう」の紹介	2010. 2
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	天体観望会「冬の星座と金星、火星」の紹介	2010. 2
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	バックヤードツアーの紹介	2010. 2
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「土の中の微生物を観察しよう」の紹介	2010. 2
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	天体観望会「冬の星座と金星、火星」の紹介	2010. 2
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	バックヤードツアーの紹介	2010. 2
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010. 3
アナウンサーによる原稿読み	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「動物の足あとスタンプをつくろう」の紹介	2010. 3
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010. 3
アナウンサーによる原稿読み	ＦＭいせさき	群馬県からのお知らせ	サイエンス・サタデー「動物の足あとスタンプをつくろう」の紹介	2010. 3
アナウンサーによる原稿読み	ＧＴＶ	鶴太郎のぐんま一番	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010. 3. 12
大森威宏	ラジオ高崎	群馬県からのお知らせ	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010. 3. 12
アナウンサーによる原稿読み	ＧＴＶ	ジャスト６	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010. 3. 13
アナウンサーによる原稿読み	ＧＴＶ	鶴太郎のぐんま一番	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010. 3. 14
田中源吾	ＦＭいせさき	まん中・ぐんま元気情報	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010. 3. 19

上原久志	ＦＭ群馬	群馬情報 トッピング	企画展「むし 虫 ウォッチング」の紹介	2010.3.25

(2) 出版物

種類	名　　称	規格	頁数	部数
博物館だより	自然史博物館だより「デメテール」No45	A4 版 2p ｶﾗｰ･6p2 色	4	10,000
	自然史博物館だより「デメテール」No46	A4 版 2p ｶﾗｰ･6p2 色	4	10,000
	自然史博物館だより「デメテール」No47	A4 版 2p ｶﾗｰ･6p2 色	4	10,000
ポスター	第 33 回企画展ポスター	B2 版ｶﾗｰ		3,000
	第 34 回企画展ポスター	B2 版ｶﾗｰ		3,000
	第 35 回企画展ポスター	B2 版ｶﾗｰ		3,000
パンフレット	第 33 回企画展パンフレット	A4 版ｶﾗｰ		60,000
	第 34 回企画展パンフレット	A4 版ｶﾗｰ		57,000
	第 35 回企画展パンフレット	A4 版ｶﾗｰ		60,000
企画展図録	第 33 回企画展図録	A4 版ｶﾗｰ	37	1,300
	第 34 回企画展図録	A4 版ｶﾗｰ	43	1,000
	第 35 回企画展図録	A4 版ｶﾗｰ	55	1,000
リーフレット	イベントカレンダー 2009.10～2010.3	A4 版 表ｶﾗｰ･裏１色		25,000
	イベントカレンダー 2010.4～2010.9	A4 版 表ｶﾗｰ･裏１色		25,000
研究報告	研究報告 14 号	A4 版一部ｶﾗｰ 大判付図２枚	161	600

7　ボランティア等支援活動

(1)　ボランティア活動

今年度は４区分(解説・発送・資料整理・サタデー)で活動を行った。なお、解説ボランティア、資料整理ボランティア、サタデーボランティアを募集し、新規７名が加わった。

①　ボランティア登録状況

2008 年度末	新　規	再登録	辞　退	2009 年度末
77 名	7 名	3 名	6 名	81 名

②　ボランティア活動状況

一人三分野まで活動できることとした。

分　　野	人　数	活動回数
解　説	29	257
発　送	20	44
資料整理	11	147
サイエンス・サタデー	33	289
合　　計	93	737

③　ボランティア基礎学習会

ボランティアの基礎知識向上と生涯教育の一環、ボランティアと職員との交流をねらいとして基礎学習会を行った。

日　　時	2010 年 2 月 28 日(日) 13:30～15:00
参加人数	18 名
場　　所	大会議室
テーマ	外来生物って悪者？
講　　師	学芸係　金井　英男

④　サタデーボランティア新規メニュー検討会

新規のメニューの説明内容・作成方法等を習得するとともに、改善点を話し合った。

テーマ	落ち葉で お面をつくろう	北極星を見つける 星座盤をつくろう	オオムラサキのペーパークラフトをつくろう
講　師	教育普及係　上原久志	学芸係　杉山直人	教育普及係　上原久志
日　時	10 月 10 日(土) 15:15～16:30	11 月 28 日(土) 15:15～16:30	2 月 27 日 (土) 15:15～16:30
参加者	9 名	13 名	13 名

⑤　富岡市ボランティアフェスティバル

富岡市内を主な活動拠点とするボランティア団体が参加するイベントで、博物館ボランティアの活動の紹介や自然史博物館のＰＲを目的として参加し、ミニ移動博やミニ科学教室を開催した。

日　　時	2010 年 1 月 24 日(日)10:00～15:00
参加人数	25 名
場　　所	富岡市生涯学習センター　エントランス

⑥　ボランティア全体会

ボランティア全体会を１回実施した。内容は、館長を含めた館職員といっしょに、一年間の活動の反省と課題について意見交換を行った。

日　　時	2010 年 2 月 28 日(日)10:30～12:30
参加人数	30 名（内職員 6 名）
場　　所	大会議室

(2)　友の会

①　平成 21 年度会員数　199 名

〈内 訳〉

個人会員	40 名
家族会員	39 家族
賛助会員	16 団体・個人

②　総会・講演会

日　　時	2009 年 5 月 10 日(日)
参加人数	24 名
講　　師	館長　長谷川善和

③　友の会博物館等視察研修会

日　　時	2009 年 11 月 1 日(日)　　7:30～18:30
場　　所	アクワワールド茨城県大洗水族館、水戸天狗納豆本家（納豆資料館）
参加人数	26 名

④ フィールド活動・体験活動

	里山植物観察会	地層観望会	バックヤードツアー
講　師	里見哲夫	角田寛子･堀越武男	館職員(松本功･武井郁也)
日　時	6 月 21 日(日) 9:00～12:00	12 月 5 日(土) 9:00～12:00	1 月 24 日（日） 10：00～12：00
参加者	23 名	19 名	18 名

⑤ 友の会通信

	第 21 号	第 22 号
発　行　日	8 月 5 日(水)	2 月 10 日(水)
編集委員会	6 月 21 日(日)	12 月 5 日(日)
場　　所	中会議室	中会議室
発 行 部 数	500 部	500 部

Ⅲ　資料

1　職員の委員会等委員就任状況

職・氏名	名　　称	依　頼　先	期　間
館　長 長谷川善和	埼玉県立自然史博物館資料評価委員会委員	埼玉県立自然史博物館	
	茨城県自然博物館資料評価委員会委員	茨城県自然博物館	
	日本蛇族学術研究所理事	日本蛇族学術究所	
	長野県飯田市美術博物館顧問	飯田市	
	日本洞窟学研究所理事	岩泉町	
主幹 金井英男	日本理科教育学会関東支部評議員	日本理科教育学会	H15.4.1～
	第53回日本学生科学賞･県審査会審査員	読売新聞社	H21.10.7
主幹 大森威宏	前橋市自然環境保全推進委員	前橋市生活環境部	H17.4.1～
	群馬県RDB改訂(植物部門)検討委員長	群馬県自然環境調査研究会	H20.4.1～
	群馬県自然環境審議会委員	群馬県環境森林部	H21.3.25～
	すげの会幹事	すげの会	H20.5.7～
副主幹(学芸員) 髙桒祐司	自然史学会連合博物館部会委員	自然史学会連合	H22.1.1～ H22.3.31
	化石研究会運営委員	化石研究会	H21.6.13～
	三重県立博物館･御幣川ミエゾウ足跡化石調査委員	三重県立博物館	H21.12.15～
	ジオパーク下仁田協議会委員	下仁田町	H22.3.2～ H24.3.31
主任(学芸員) 木村敏之	第53回日本学生科学賞･県審査会審査員	読売新聞社	H21.10.7
主任(学芸員) 姉崎智子	群馬県ツキノワグマ保護管理検討会委員	群馬県環境森林部	H17.4.1～
	群馬県ニホンカモシカ保護管理検討会委員	群馬県環境森林部	H20.11.1～
	群馬県ニホンザル保護管理検討会委員	群馬県環境森林部	H22.3.9～
	群馬県ニホンイノシシ保護管理検討会委員	群馬県環境森林部	H21.8.28～
	群馬県ニホンジカ保護管理検討会オブザーバー	群馬県環境森林部	H20.9.1～
	群馬県RDB改訂(動物部門)検討委員	群馬県自然環境調査研究会	H20.4.1～
主任(学芸員) 田中源吾	日本古生物学会会員係幹事	日本古生物学会	H19.6.1～
	第53回日本学生科学賞･県審査会審査員	読売新聞社	H21.10.7

2　職員の研修会等講師としての派遣状況

研　修　会　等　名　称	主　催　者	期　日	派遣職員
「恐竜 2009－砂漠の奇跡」 総合監修	日本経済新聞社･テレビ東京･ 日経ナショナルジオグラフィック社	～H21.10	長谷川 善和
「恐竜2009－砂漠の奇跡」 開催記念シンポジウム　パネラー	同　上	H21.7.18	長谷川 善和
今博物館に何が問われているか	静岡県自然史博物館 ネットワーク	H21.4.28	長谷川 善和
植生調査現地講習会	群馬県緑のインタープリター協会	H21.6.21	大森威宏
「莎草研究」論文査読	すげの会	H22.1	大森威宏
佐久穂地学同好会見学会	佐久穂地学同好会	H21.7.26	髙棊祐司
「化石研究会誌」論文査読	化石研究会	H21.12	髙棊祐司
「地球科学」論文査読	地学団体研究会	H22.2	髙棊祐司
サマースペシャル「大恐竜展」 貸出展示物(恐竜等) 組立ならびに解体梱包指導 (於　大分県立芸術会館)	大分放送	H21.6.29 7.3,8.17 ～8.20	髙棊祐司
「恐竜 2009－砂漠の奇跡」貸出 展示物(恐竜等) 組立ならびに 解体･梱包指導 (於　幕張メッセ)	日本経済新聞社･テレビ東京･ 日経ナショナルジオグラフィック社	H21.7.12 ～7.18, 9.26 ～9.30	髙棊祐司
「Science」論文査読	American Association for the Advancement of Science	H22.1	木村敏之
「Systematic Biology」 論文査読	Society of Systematic Biologists	H22.3	木村敏之
平成 21 年度鳥獣保護管理に おける現場指導者研修会	環境省	H21.10.26 ～10.27	姉崎智子
センター講座： 「知る･見る･学ぶ 野生動物の生態」	富岡市生涯学習センター	H21.11.1	姉崎智子

3　職員の論文発表等

(1)　論文等

職・氏名	論　　題	発　表　誌	発表年
館　長 長谷川善和	Early Miocene platanistoid from the Mizunami Group, Central Japan (Kimura, T., Hasegawa, Y. and Okumura, Y.)	Paleontological Research, vol.13(2):167-171	2009
	A new baleen whale (Mysticeti: Cetotheriidae) from the earliest Late Miocene of Japan and a reconsideration of the phylogeny of cetotheres (Kimura, T. and Hasegawa, Y.)	Journal of Vertebrate Paleontology, vol.30(2) : 577-591.	2010
	A remarkable case of a shark-bitten Elasmosaurid plesiosaur (Shimada,K., Tsuihiji,T.,Sato,T. and Hasegawa, Y.)	Journal of Vertebrate Paleontology, vol.30(2): 592-597.	2010
	Fine sculptures on a tooth of *Spinosaurus* (Dinosauria, Theropoda) from Morocco (Hasegawa, Y.,Tanaka,G.,Takakuwa,Y. and Koike,S.)	Bulletin of Gunma Museum of Natural History, (14):11-20.	2010
	Description of a new genus and a new species, '*Ikeyacythereis kumejimensis*' (Trachyleberididae, Ostracoda), from the upper Pliocene Aka Formation, Kume-jima Island, Okinawa Prefecture, Japan (Tanaka, G., Hasegawa, Y. and Nomura, S.)	Bulletin of Gunma Museum of Natural History, (14): 21-28.	2010
	岩手県岩泉町の氷渡洞におけるケイブシステムと二次生成物 (菊池正志・山内　正・伊勢典昭・大山夏生・大崎善成・長谷川善和)	群馬県立自然史博物館研究報告, (14): 79-94.	2010
	広島県庄原市の中新統備北層群より産出したヒゲクジラ類化石 (木村敏之・長谷川善和・大澤　仁・上田隆人・山岡隆信)	群馬県立自然史博物館研究報告, (14): 29-36.	2010
	熊本県上天草市松島町にて採集されたスナメリ頭蓋 (長谷川善和・木村敏之・小松俊文)	群馬県立自然史博物館研究報告, (14): 127-131.	2010

主幹 金井英男	凍結乾燥による水生昆虫標本の有用性について（金井英男）	群馬県立自然史博物館研究報告, (14)： 149-152.	2010
主幹 高橋克之	ミドリシジミ亜科２種の上層鱗に見られる構造色について （田中源吾，高橋克之,小池　智）	群馬県立自然史博物館研究報告, (14)： 51-57.	2010
主幹 大森威宏	Distribution patterns of *Myrica gale* var. *tomentosa* and its relationship to microtopography in the Ozegahara Mire, central Japan (Ohmori, T., Yamamura, Y. and Hori, Y.)	Vegetation Science, 26: 1-8.	2009
	群馬県新産外来植物･シラユキゲシ（*Eomecon chionantha* Hance：ケシ科） （大森威宏）	群馬県立自然史博物館研究報告, (14)： 125-126.	2010
副主幹(学芸員) 髙桒祐司	日本における深海性サメ類化石研究の現状 （髙桒祐司･鈴木秀史）	月刊海洋，号外, (52)： 73-86.	2009
	長野県の中部中新統別所累層および青木累層から産出した板鰓類化石の概要(髙桒祐司)	信州新町化石博物館研究報告, (13)： 7-18.	2009
	御幣川河床東海層群から産出したシカ類の枝角化石 （髙桒祐司･冨田幸光）	三重県立博物館･御幣川ゾウ足跡化石発掘調査報告書 (印刷中)	2010
	Three-dimensionally preserved *Triops* sp. (Crustacea, Branchiopoda) from a Miocene volcaniclastic sediment in Ota City (Tanaka, G.,Takakuwa,Y. and Ishihara,K.)	Bulletin of Gunma Museum of Natural History, (14)： 95-98.	2010
	Fine sculptures on a tooth of *Spinosaurus* (Dinosauria, Theropoda) from Morocco (Hasegawa, Y., Tanaka,G., Takakuwa,Y. and Koike,S.)	Bulletin of Gunma Museum of Natural History, (14)： 11-20.	2010
	島根県松江市の中新統古浦層より発見された陸生脊椎動物 （河野重範･平山　廉･薗田哲平･高橋亮雄･仲谷英夫･酒井哲弥･髙井正成･荻野慎太郎･甲能直樹･高桑祐司･青木良輔）	化石研究会誌, 41(2)： 108	2009
副主幹 杉山直人	群馬県内のヤマビル分布状況(2009 年) （杉山直人･坂庭浩之）	群馬県立自然史博物館研究報告, (14)： 145-148.	2010
主任(学芸員) 木村敏之	Early Miocene platanistoid from the Mizunami Group, Central Japan (Kimura, T., Hasegawa, Y. and Okumura, Y.)	Paleontological Research, vol.13(2):167-171	2009

主任(学芸員) 木村敏之	A new baleen whale (Mysticeti: Cetotheriidae) from the earliest Late Miocene of Japan and a reconsideration of the phylogeny of cetotheres (Kimura, T. and Hasegawa, Y.)	Journal of Vertebrate Paleontology, vol.30(2) : 577-591.	2010
	Review of the fossil balaenids from Japan with a re-description of *Eubalaena shinshuensis* (Mammalia, Cetacea, Mysticeti)(Kimura, T.)	Quaderni del Museo di Storia Naturale di Livorno, vol.22:1-19	2009
	広島県庄原市の中新統備北層群より産出したヒゲクジラ類化石 (木村敏之・長谷川善和・大澤　仁・上田隆人・山岡隆信)	群馬県立自然史博物館研究報告, (14): 29-36.	2010
	熊本県上天草市松島町にて採集されたスナメリ頭蓋 (長谷川善和・木村敏之・小松俊文)	群馬県立自然史博物館研究報告, (14): 127-131.	2010
主任(学芸員) 姉崎智子	「イノシシにおける個体群パラメーターの解明」 (姉崎智子・坂庭浩之)	平成 21 年度　新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「営農管理的アプローチによる鳥獣害防止技術の開発」 成果報告書	2010
	「イノシシにおける個体群パラメーターの解明」 (姉崎智子・坂庭浩之)	平成 21 年度　新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「営農管理的アプローチによる鳥獣害防止技術の開発」 カラーパンフレット	2010
	「群馬県のハクビシンの疥癬について」 (姉崎智子・坂庭浩之・田中義朗・黒川奈都子)	群馬県立自然史博物館研究報, (14): 141-144.	2010
	「群馬県におけるハクビシンの食性と生息状況」 (姉崎智子・坂庭浩之・田中義朗)	群馬県立自然史博物館研究報, (14): 99-102.	2010
	「群馬県におけるツキノワグマ期間限定給餌事業とその課題(速報 2009)」 (坂庭浩之・姉崎智子・中山寛之)	群馬県立自然史博物館研究告, (14): 103-110.	2010
	「群馬県におけるニホンジカの分布の変遷について」 (坂庭浩之・姉崎智子)	群馬県立自然史博物館研究告, (14): 133-140.	2010

主任(学芸員) 姉崎智子	「群馬県に生息するニホンイノシシの mtDNA D-loop 領域および *GPIP* 遺伝子の多型解析」(高橋遼平・石黒 直隆・姉崎智子・本郷一美)	群馬県立自然史博物館研究告,(14): 37-44.	2010
	「４．動物遺体」 (西本豊弘・姉崎智子)	清水天王山遺跡 第４次～５次 発掘報告. 静岡県教育委員会	2008
主任(学芸員) 田中源吾	Redescription of *Bradleya japonica* Benson, 1972 (Ostracoda) from the Sea of Japan and the significance of its shell shape from an optical point of view. (Tanaka, G.,Kaji, T. and Maeda,H.)	Crustaceana, 82: 1109-1118.	2009
	An exceptionally well-preserved Eocene dolichopodid fly eye: function and evolutionary significance. (Tanaka,G., Parker, A., Siveter, D., Maeda, H. and Furutani, M.)	Proceedings of the Royal Society of London B, 276: 1015-1019.	2009
	Adaptive modifications of carapace outline in the Cytheroidea (Ostracoda: Crustacea).(Tanaka, G.)	Biological Journal of the Linnean Society, 97: 810-821.	2009
	Recent ostracod assemblages from the northeastern coast of Vietnam and the biogeographical significance of the euryhaline species. (Tanaka, G., Komatsu,T. and Phong,N. D)	Micropaleontology, 55: 365-382.	2009
	The visual system and paleoecology of the Silurian ostracod *Primitiopsis planifrons*. (Tanaka, G., Siveter,D. and Parker,A. R)	Journal of Paleontology, 83: 414-421.	2009
	Late Miocene and Pliocene Ostracoda from the Shimajiri Group, Kume-jima Island, Japan: Biogeographical significance of the timing of the formation of back-arc basin (Okinawa Trough).(Tanaka, G. and Nomura, S.)	Palaeogeography, Palaeoclimatology, Palaeoecology, 276: 56-68.	2009

主任(学芸員) 田中源吾	First record of the cirripede genus *Stramentum* (Thoracia, Scalpelliformes) from the Upper Cretaceous of Japan (Nomura,S., Maeda, H.,Harada,S. and Tanaka, G.)	Palaeontology, 52: 849-855.	2009
	西南日本島根県中部中新統古江層から産出した介形虫化石群 (田中源吾,野村律夫)	地質学雑誌, 115: 261-265.	2009
	Three-dimensionally preserved decapods larval compound eyes from the Cretaceous Santana Formation of Brazil (Tanaka, G., Smith, R., Siveter,D. and Parker,A.R.)	Zoological Science, 6: 846- 850.	2009
	Original structural color preserved in an ancient leef beetle (Tanaka, G.,Taniguchi,H.,Maeda, H. and Nomura,S.)	Geology, 38: 127-130	2010
	Description of appendages from three marine trachyleberidid species (Ostracoda, Crustacea) from Japan (Tanaka, G. and Seto, K.)	Journal of Micropalaeontology, 29: 1-13.	2010
	Three-dimensionally preserved *Triops* sp. (Crustacea, Branchiopoda) from a Miocene volcaniclastic sediment in Ota City (Tanaka, G., Takakuwa,Y. and Ishihara,K.)	Bulletin of Gunma Museum of Natural History, (14): 95-98.	2010
	ミドリシジミ亜科２種の上層鱗に見られる構造色について (田中源吾, 高橋克之,小池　智)	群馬県立自然史博物館研究報告, (14): 51-57.	2010
	Description of a new genus and a new species, '*Ikeyacythereis kumejimensis*' (Trachyleberididae, Ostracoda), from the upper Pliocene Aka Formation, Kume-jima Island, Okinawa Prefecture, Japan (Tanaka, G.,Hasegawa,Y. and Nomura,S.)	Bulletin of Gunma Museum of Natural History, (14): 21-28.	2010
	Fine sculptures on a tooth of *Spinosaurus* (Dinosauria, Theropoda) from Morocco (Hasegawa,Y., Tanaka,G., Takakuwa,Y. and Koike,S.)	Bulletin of Gunma Museum of Natural History, (14): 11-20.	2010

主任(学芸員) 田中源吾	Taxonomic evaluation of various morphological characters in the Late Cretaceous desmoceratine polyphyletic genus "*Damesites*" from the Yezo Group in Hokkaido and Sakhalin (Nishimura, T., Maeda, H., Shigeta, Y. and Tanaka,G.)	Paleontological Research, 14 (in press)	2010
主幹 清水伸彦	高田川(群馬県富岡市)の鳥類相とヨシ類保全の重要性(清水伸彦)	群馬県立自然史博物館研究報告, (14): 111-118.	2010

(2) **学会等発表**

氏　　名	発　　表　　題	学 会 名 等	発表年
館　長 長谷川善和	広島県庄原市の中新統備北層群より産出したヒゲクジラ類化石２標本 (木村敏之･長谷川善和･大澤　仁･山岡隆信･上田隆人)	日本古生物学会 第 159 回例会 (於　琵琶湖博物館)	2010. 1.29-31
主幹 大森威宏	尾瀬国立公園のカヤツリグサ科植物相 (大森威宏･黒沢高秀)	すげの会第 20 回全国大会 (於　福島県白河市)	2009. 5.30
	群馬県の居住域に生育する滅危惧種雑草の分布と現状 (大森威宏)	平成 21 年度自然系調査研究機関 調査研究･活動事例発表会 (於　神奈川県伊勢原市)	2009. 11.16
副主幹(学芸員) 髙桒祐司	長野県信濃町の上部更新統野尻湖層におけるヘラジカ化石の新産出 (髙桒祐司･野尻湖哺乳類グループ)	日本古生物学会 2009 年 年会 (於　千葉大学)	2009. 6.26-28
	Naumannが記載したトウヨウゾウ伊香立標本と共産したシカ類の再発見(髙桒祐司)	日本古生物学会 第 159 回例会 (於　琵琶湖博物館)	2010. 1.29-31
副主幹 杉山直人	群馬県内のヤマビル分布状況(2009 年)(杉山直人･坂庭浩之)	群馬県野生動物調査･対策報告会(2009 年度)	2010. 2.21
主任(学芸員) 木村敏之	広島県庄原市の中新統備北層群より産出したヒゲクジラ類化石２標本(木村敏之･長谷川善和･大澤　仁･山岡隆信･上田隆人)	日本古生物学会第 159 回例会 (於　琵琶湖博物館)	2010. 1.29-31
主任(学芸員) 姉崎智子	群馬県におけるハクビシンの食性と生息状況(姉崎智子･坂庭浩之･田中義朗)	第 15 回野生生物保護学会(於　日本獣医生命科学大学)	2009. 11.6-8

主任(学芸員) 姉崎智子	群馬県下におけるニホンザルの分布の拡大と定着 (姉崎智子・坂庭浩之・上原貴夫)	第12回自然系調査研究機関連絡会議 (NORNAC)(於　神奈川県フォーラム２４６)	2009. 11.16-17
	Spatial distribution and food habitat of wild boar (*Sus scrofa*) in Gunma Prefecture (Anezaki, T., Sakaniwa, H. and Takayama, H.)	総合研究大学院大学シンポジウム“Origin and Evolution of Environmental Adaptation -Symbiosis, Cell, Individual, Population and Society-“ (於　総合研究大学院大学)	2010. 1.27-29
	「野生動物の生きていた証拠を残す in 群馬県」 (姉崎智子)	シンポジウム「動物園と野生下での動物遺体・生体研究」(於　東京大学総合研究博物館)	2010. 2.7
	「イノシシにおける個体群パラメーターの解明」 (姉崎智子・坂庭浩之)	平成 21 年度　新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業 「営農管理的アプローチによる鳥獣害防止技術の開発」成果発表会(於　東京大学弥生講堂)	2010. 2.10
	「カモシカの生息状況と対策について」(中山寛之・坂庭浩之・姉崎智子)	群馬県野生動物調査・対策報告会(2009 年度)	2010. 2.21
	「群馬県におけるイノシシの繁殖状況と遺伝子解析について」(姉崎智子・高橋遼平・石黒直隆・本郷一美・坂庭浩之・高山広規)	同上	2009. 2.21
	「群馬県におけるツキノワグマ期間限定給餌事業とその課題(速報 2009)(坂庭浩之・中山寛之・姉崎智子)	同上	2009. 2.21
	「奥山におけるカメラトラップについて」 (坂庭浩之・高山広規・中山寛之・姉崎智子)	同上	2009. 2.21
	DID DOMESTIC PIGS REACH PREHISTORIC RYUKYU ISLANDS? (Takahashi, R., Ishiguro, N. ,Anezaki, T., Matsui, A. and Hongo, H.)	IPPA(Indo-Pacific Prehistory Association) (in Vietnam)	2009. 11.29-12.5

主任(学芸員) 姉崎智子	野国貝塚郡B地点より出土したイノシシ属骨の形態学的・分子系統学的解析 (高橋遼平・石黒直隆・松井 章・姉崎智子・本郷一美)	第13回動物考古学研究会 (於　ミュージアムパーク茨城県自然博物館)	2009. 12.19-12.20
主任(学芸員) 田中源吾	例外的に保存された節足動物の眼の化石とその復元 (田中源吾)	化石研究会第132回例会 (於　豊橋市自然史博物館)	2009. 11.21
	スケールモデルを用いたハエ化石の個眼表面にみられる微細構造の機能形態学的研究 (田中源吾)	日本古生物学会 第159回例会 (於　琵琶湖博物館)	2010. 1.30

(3)　著書・訳書

職・氏名	書　誌　題	発　行　所	発表年	備考
館長 長谷川善和	日本恐竜発掘記 (日本経済新聞社ほか２社編, 恐竜2009－砂漠の奇跡 公式カタログ, p.56-59.)	日本経済新聞社・テレビ東京・日経ナショナルジオグラフィック社	2009	分担執筆
館長 長谷川善和	スピノサウルスには鋸歯があるか (日本経済新聞社ほか２社編, 恐竜2009－砂漠の奇跡 公式カタログ, p.118-119.)	日本経済新聞社・テレビ東京・日経ナショナルジオグラフィック社	2009	分担執筆
主幹 大森威宏	至仏山登山道沿いのオゼソウ群落の動態とオゼソウの生態について(吉井広始・鈴木伸一・片野光一・大森威宏) (尾瀬の自然保護 第32号, p.1-6.)	群馬県	2009	分担執筆
専門員(副主幹) 髙桒祐司	碓氷川の動物化石. (「ぐんまの大地」編集委員会編 ぐんまの大地―生いたちをたずねて―, p.106-107.)	上毛新聞社	2009	分担執筆
	日本のティタノサウルス形類からわかること (日本経済新聞社ほか２社編, 恐竜2009－砂漠の奇跡 公式カタログ, p.64-67.)	日本経済新聞社・テレビ東京・日経ナショナルジオグラフィック社	2009	分担執筆

専門員(副主幹) 髙棊祐司	下総層群の中期更新世陸生生物化石群と古環境(兼子尚知・岡崎浩子・平山　廉・髙棊祐司・樽創・伊左治鎭司・鵜飼宏明・加藤久佳・百原　新・中里裕臣・奥田昌明; 日本第四紀学会50周年電子出版編集委員会編, デジタルブック最新第四紀学)	日本第四紀学会	2009	分担執筆
主任(学芸員) 姉崎智子	「頭骨にみる 動物たちのくらし」	理科教室№662 (vol.53, No.2)	2010.2	執筆
主任(学芸員) 田中源吾	古生物学事典	朝倉書店	2010	分担執筆

(4)　その他(マスコミ等への発表・表彰など)

氏　　名	論　　題	発表誌／発行所	発表年	備考
館　長 長谷川 善和	日本にも生息の痕跡 ―浜松のトラ―	静岡新聞しずおか 自然史21		
	大陸からやって来た ―オオカミの化石―	静岡新聞しずおか 自然史113	2009.11	
	絶滅した哺乳類動物 ―ニホンモグラジネズミ―	静岡新聞	2010.02	
	日本にトラがいた！ (インタビュー)	しんぶん赤旗	2009.12.7 2010.1.3 合併号	
	古代の虎	山陽新聞	2010.1	
	古代の虎	東京新聞(夕刊)	2010.1	
	恐竜2009砂漠の奇跡によせて	東方343 p.8～11	2009.9	
	キュレーションの壺 (インタビュー)	ギャラリー9 p.80～83	2009.9	
主任(学芸員) 姉崎智子	群馬県優秀職員(部局長)		2010.3.30	表彰
主任(学芸員) 田中源吾	カンブリア爆発から 海洋無酸素事変まで	ニュートンムック 株式会社 ニュートンプレス	2009.11	記事
	深い海の小さく多様な生物の時代	ニュートン, 29巻, 10号 株式会社 ニュートンプレス	2009.10.7	記事

4　視察受入

番号	受入日	団体名	人数
1	4月17日	板橋区教育委員会	60
2	4月23日	東久留米市教育委員会	27
3	4月25日	練馬区教育委員会	60
4	5月7日	目黒区教育委員会	25
5	5月12日	中野区教育委員会	30
6	5月29日	文京区教育委員会	23
7	7月22日	板橋区教育委員会	28
8	8月27日	千代田区教育委員会	14
9	3月5日	神流町恐竜センター	4
10	3月30日	千代田区教育委員会	8
合計人数			279

5　来館者アンケート集計結果

実施日：7月26日、8月12日、8月20日、9月21日、10月10日、10月25日、11月8日

回答数：210人　　（数値は%）

来館者データ

住所	
群馬県	67.6
埼玉県	17.1
東京都	3.3
栃木県	0.0
新潟県	0.5
千葉県	2.4
山梨県	0.0
その他	9.0

誰と来た	
家族で	93.3
友達と	4.3
団体で	0.0
一人で	0.5
その他	2.4

どんな目的で	
常設展を	52.9
企画展を	53.8
その他	14.3

博物館について

何で知ったか	
家族や友達	43.3
ポスターチラシ	13.3
その他の雑誌	16.7
インターネット	11.0
るるぶ群馬・まっぷる群馬	4.8
新聞	5.2
テレビ	11.4
ラジオ	2.4

来館数	
初めて	44.8
２～４回	33.2
５回以上	21.9

職員の対応	
良かった	67.6
ふつう	31.9
よくなかった	0.5

館の施設	
良かった	84.3
ふつう	15.7
よくなかった	0.0

展示について

当館の展示は	
良かった	88.1
ふつう	11.9
よくなかった	0.0

６ 学校アンケート集計結果

アンケート提出校 228 校（県内 90 校・県外 138 校）

（数値は%）

学校の所在	
県内	39.5
県外	60.5
東京	32.5
埼玉	24.1
長野	3.1
千葉	0.9

来館した学年					
小1	4.8	中1	3.1	養護	0.4
小2	6.6	中2	3.1	心身学級	0.9
小3	18.0	中3	0.4		
小4	23.7	高1	0.0		
小5	42.1	高2	0.4		
小6	14.9	高3	0.4		

見学時間（滞在時間）	
～1時間	16.2
１時間～１時間30分	19.3
１時間30分～２時間	14.0
２時間～２時間30分	14.0
２時間30分～３時間	8.8
３時間～３時間30分	10.5
３時間30分～	5.7

見学の位置付け			
遠足	14.0	研修	0.0
旅行	12.3	校外学習	0.4
社会科見学	26.3	生活科	0.4
理科学習	4.8	部活動	0.0
総合学習	5.3	理数科行事	0.0
移動教室	35.1	その他	1.3
林間学校	4.4		

下見の実施	
実施した	73.7
実施しなかった	26.3

下見をしなかった理由	
利用経験がある	76.7
時間がとれなかった	23.3
必要性を感じなかった	5.0

事前指導の内容	
博物館概要	50.0
主な展示物	32.5
見学の仕方	69.3
学習課題の設定	34.6
諸注意	61.8
実施しない	5.3

博物館紹介ビデオ	
利用した	33.3
利用しなかった	65.8

チャレンジノート	
利用した	28.1
ｵﾘｴﾝﾃｰﾘﾝｸﾞ	25.9
利用しない	44.3

チャレンジノートの入手方法	
学校保管	62.5
下見時受領	21.9
購入	7.8
貸出用等	0.0

見学の仕方	
全員で	2.2
グループ別で	86.8
個人で	11.0

７ 入館者状況

別ファイルを参照のこと

8　職員名簿

職　　名		氏　　名	当館における履歴
館　　長（嘱託）		長谷川　善和	7.4～8.3　建設準備室参与 8.4～22.3　館長
副　館　長		佐藤　幹夫	16.4～22.3　副館長
次　長（教育普及係長）		斉藤　雅文	21.4～22.3
教育普及係	主　幹	清水　伸彦	14.4～現職
	主　幹	齋藤　則子	18.4～22.3
	主　幹	松本　　功	15.4～19.3 学芸グループ 19.4～22.3
	主　幹	上原　久志	15.4～現職
	主　幹	高橋　秀武	20.4～現職
	主　幹	武井　郁也	18.4～現職
学　芸　係	補　佐(学芸係長)	里見　立夫	19.4～22.3
	主　幹	金井　英男	17.4～現職
	主　幹	高橋　克之	12.4～現職
	主　幹	大森　威宏	10.4～現職
	副主幹（学芸員）	髙桒　祐司	5.4～8.3 建設準備室 8.4～現職
	副主幹	杉山　直人	20.4～現職
	主　任（学芸員）	木村　敏之	14.4～現職
	主　任（学芸員）	姉崎　智子	17.4～現職
	主　任（学芸員）	田中　源吾	20.12～現職

嘱託

展示解説員	高橋　弘美　外所　宏美　菅野　文華　羽田　恭子 佐々木尚子　菊地　如子　佐藤　陽子　高橋　智子
資料整理員	齋藤佳代子